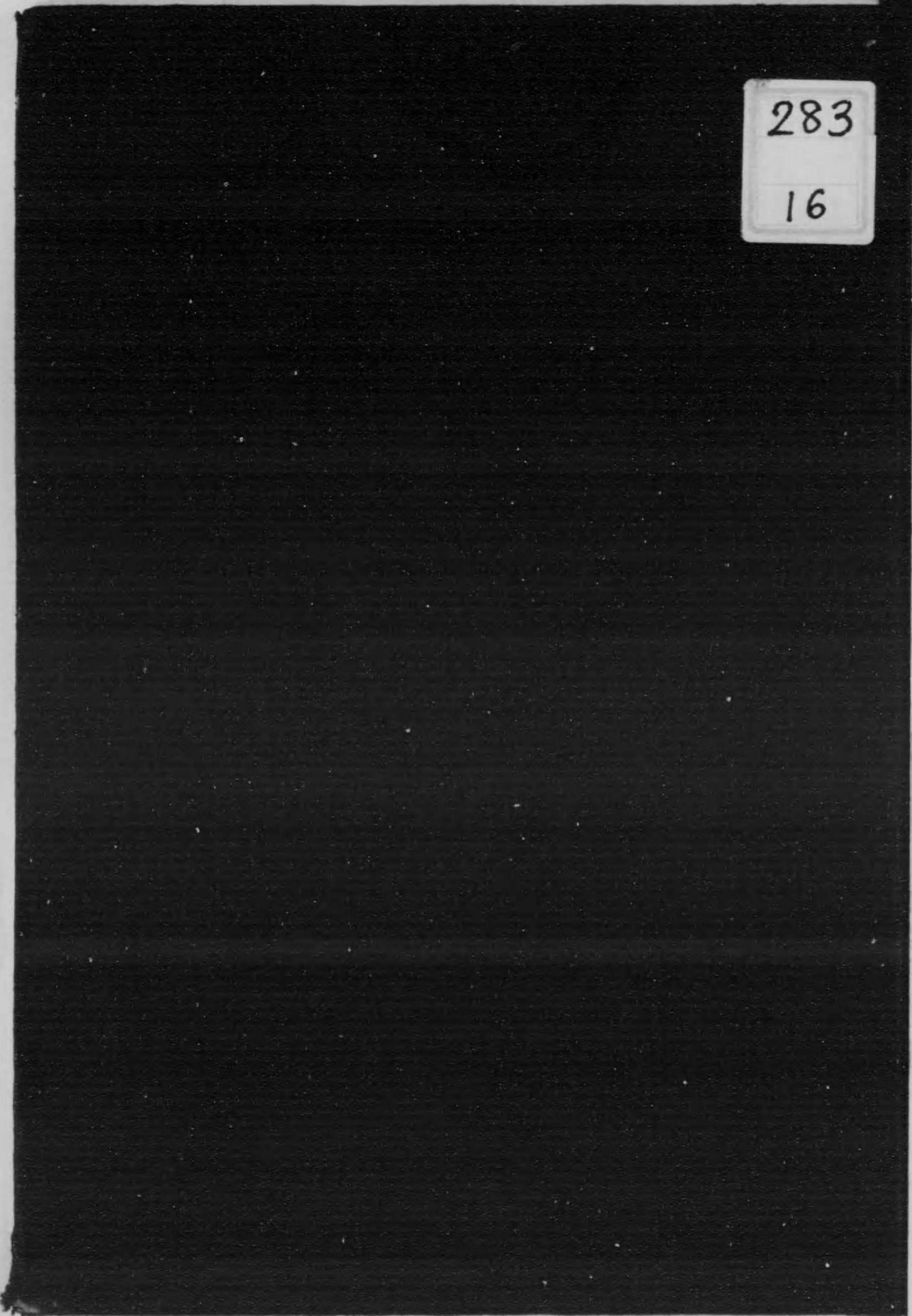


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 18 50 1 2 3 4 5

283
16



始



383

16

第六高等學校一覽

自大正元年
至大正二年

283-16

第六高等學校一覽目次

學年歷	一頁
沿革略	四
關係諸法令	一三
(一) 高等學校令(抄)	一三
(二) 高等學校大學豫科學科規程	一三
(三) 第六高等學校設置	二六
(四) 文部省直轄諸學校官制(抄)	二六
(五) 文部省直轄諸學校職員定員令(抄)	三一
(六) 雇外國人使用方	三一
(七) 高等官々等俸給令(抄)	三一
(八) 判任官俸給令(抄)	三五

2. 1. 27

第六高等學校 寄贈本

目次

(九) 文部省直轄諸學校教官俸給ノ支給ニ關スル件	三七
(十) 高等學校大學豫科入學者資格	三八
(十一) 高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程	三九
(十二) 高等學校大學豫科入學者選拔試驗無試驗檢定規程	四三
(十三) 文部省所管ノ學校二個以上ニ入學ヲ出願シタル者扱方ノ件	四六
(十四) 文部省直轄學校生徒他ノ文部省直轄學校ノ入學試験ヲ受クルノ件	四七
(十五) 文部省直轄學校外國人特別入學規程	四七
(十六) 文部省直轄學校外國人特別入學規程ヲ	四七
(十七) 臺灣人若クハ朝鮮人ニ準用ノ件	四八
(十八) 大學豫科學力檢定規程	四九
(十九) 行幸啓ノ節學生生徒敬禮方	五〇
(二十) 高等中學校令	五二
(二十一) 高等中學校規程	五四

四、校則

第一章 校規

第一款 總則	六八
第二款 學科課程	六八
第三款 學年學期及休業	七八
第四款 入學及在學	七九
第五款 生徒心得	八〇
第六款 進級及卒業	八一
第七款 特待生	八三
第八款 休學	八三
第九款 退學及除名	八五
第十款 懲戒	八六
第十一款 授業料	八七

第十二款	生徒寮規程	八八
書式		九〇
第二章	細則	
第一款	教務細則	九三
第一節	授業規程	九四
第二節	生徒心得(細則)	九六
第三節	生徒集會規程	九八
第四節	學業成績考查細則	九九
第五節	生徒寮規程(細則)	一〇二
第六節	通學生徒規程	一〇八
第七節	担任教官級長及副級長規程	一一〇
第八節	監督教官規程	一一二
第九節	評議員規程	一一三

第十節	教授會規程	一一三
第十一節	服裝規程	一一四
第十二節	生徒取締規程	一一八
第二款	掌務細則	一二九
第一節	校務分掌規程	一二九
第二節	事務員服務規程	一二七
第一	事務員	一二七
第二	當直	一三一
第三節	生徒寮掌務規程	一三四
第一	寮務課長	一三四
第二	寮務掛	一三六
第四節	文庫規程 <small>附圖書閱覽室規程</small>	一三七
第五節	第六高等學校物品會計規程細則	一四一

附錄

(一) 食費ニ關スル規程	一五一
(二) 本校生徒ニシテ入學試驗ヲ受クルノ件	一五一
(三) 授業料及寄宿料徴收細則並ニ未納者取扱手續	一五二
(四) 揭示場ニ生徒ヨリ揭示ヲ爲スノ件	一五五
(五) 他學校生徒トノ競技ニ關スル件	一五六
(六) 生徒ノ集會ニ關スル件	一五七
(七) 集會所規程	一五八
(八) 郵便物ニ關スル事務手續	一六〇
(九) 火災防禦心得 附非常時變ノ際ニ於ケル宿直員心得	一七一
五、職員姓名	一七三
六、生徒姓名	一八七

七、卒業生姓名	二〇八
八、卒業生部類別人員	二五八
九、生徒府縣別人員	二六一
一〇、敷地及建物	二六六
一一、學校圖	
一二、教科書表	

第六高等學校一覽

一、學 年 曆

自大正
二元
年

第一學期

大正元年九月十一日
九月十二日
九月十三日
秋分日(秋季皇靈祭)
十月十七日(神嘗祭)
十一月二十三日(新嘗祭)
十二月二十四日
十二月二十五日
大正二年一月七日

生徒引見式
宣誓式
第一學期授業始ル
休業
休業
休業
第一學期授業終ル
冬期休業始ル
冬期休業終ル

學年曆

第二學期

一月八日

第二學期授業始ル

二月十一日

紀元節拜賀式

春分日(春季皇靈祭)

休業

三月三十一日

第二學期授業終ル

四月一日

春季休業始ル

四月七日

春季休業終ル

第三學期

四月八日

第三學期授業始ル

四月十九日

本校紀念日

七月初旬

卒業証書授與式

七月十日

第三學期授業終ル

七月十一日

夏季休業始ル

八月三十一日

天長節拜賀式

九月十日

夏季休業終ル

二、沿革略

明治三十三年

三月二十九日勅令第八十四號ニヨリ本校ヲ設置セラレ同日
 勅令第八十六號ヲ以テ職員ノ員數ヲ校長一人教授七人助教
 授四人書記四人ト定メラル 四月十三日第三高等學校教授
 酒井佐保學校長ニ任ゼラル 四月十九日文部省告示第百二
 十一號ヲ以テ本校ノ位置ヲ岡山縣岡山市大字門田字山手屋
 敷及大字國富字田中ト定メラレ假事務所ヲ文部省内ニ設ク
 同日文部省令第七號ヲ以テ本校ニ大學豫科ヲ設置セラル
 五月三十一日假リニ本校學則ヲ定メ大學豫科各部第一等級
 生徒ヲ募集ス 六月十九日文部省内假事務所ヲ岡山市大字
 國富少林寺ニ移ス 七月六日入學試驗臨時委員ヲ第三高等

學校職員ニ囑託シ第三高等學校ニ於テ入學試驗ヲ施行ス
 八月十五日入學試驗合格者ヲ悉ク各部第一等級ニ編入ス同
 時ニ生徒ノ服制及徽章並ニ生徒ノ番號ヲ定ム同日校務分掌
 規程ヲ定メ教務、寮務、庶務、會計、文庫ノ五課ヲ分チ主幹及各課
 主任ヲ置ク又事務員服務細則ヲ定ム 九月六日小橋町國清
 寺ヲ假生徒寮ニ充テ全校生徒ヲ悉ク之ニ收容ス同日事務所
 ヲ本校内ニ移ス此日曩ニ本校ニ下賜セラレタル 兩陛下並
 ニ皇太子殿下ノ御眞影及教育ニ關スル勅語ノ贍本ヲ拜戴ス
 十一、十二ノ兩日入學生徒ノ引見式ヲ又十三日ニ宣誓式ヲ行
 フ爾後定例トナス十五日開校式ヲ舉行ス、十六日地方公衆ニ
 校舎ノ從覽ヲ許ス十八日始メテ各學科ノ授業ニ就ク 十月
 二日從來ノ假學則ヲ改メ更ニ校則ヲ定ム其他擔任教官並ニ
 級長副級長等ノ制ヲ定ム

明治三十四年

一月八日、御親署ノ勅語ヲ拜戴ス 三月三十一日勅令第二十
五號ニヨリ本校教授十三人助教五人書記五人ト定メラル
五月二日 皇孫御降誕奉祝ノ爲メ臨時休業ス、九日生徒寮規
則ヲ定ム、十日寄宿舎新築落成シ新ニ生徒寮ヲ開キ國清寺ニ
設ケタル假生徒寮ヲ廢ス 八月二十五日授業料額一學年貳
拾圓ナリシヲ貳拾五圓ト改メ明治三十四年九月以後ノ入學
者ニ對シ實施スルコト、ス 九月三日博物學、化學、物理學ノ
各特別教室ノ新築落成ス

明治三十五年

一月書庫並ニ圖書閱覽室竣工シ茲ニ工事ニ關スル既定事業
完成ス 三月二十七日勅令第九十九號ヲ以テ本校教授定員
二十二、人助教同五人書記同六人ト定メラル 四月二十五

日 文 部 省 告 示 第 八 十 二 號 高 等 學 校 大 學 豫 科 入 學 試 驗 規 程 發
布セラルレ是ニヨリ從來高等學校ガ各自ニ施行シタリシ生徒
ノ入學試驗ハ茲ニ文部本省ノ事務ニ移ル 九月十一日市内
虎列拉病流行ニヨリ開校ヲ延期シ全月二十一日迄授業ヲ閉
止ス、此月二年級以上ノ生徒ニ市内散宿ヲ許シ同時ニ生徒番
號ヲ廢ス

明治三十六年

三月七日生徒寮規程中、在寮日數ニ拘ハラズ、當月全額ノ寮費
ヲ徴收スルノ規定ヲ改メ十五日以前ニ退寮シ又ハ十六日以
後ニ入寮シタルモノニ對シテハ半額トナスコトニ定メタリ
六月十九日勅令第三百三號ヲ以テ本校教授定員二十三人助教
授定員六人ニ改メラル 七月三日第一回卒業證書授與式ヲ
舉行ス

明治三十七年

五月規則中字句改正ヲ施ストコロアリ 七月七日第二回卒業證書授與式ヲ舉行ス 十一月三十日文庫規程ヲ改正シ器械標本類ノ出納保管ノ任ヲ文庫課ノ管掌ヨリ除ク

明治三十八年

二月授業料ヲ一學年金參拾圓ニ改ム、同時ニ在學證書ノ様式等ニ付キ規則中改正アリ 七月五日第三回卒業證書授與式ヲ舉行ス 九月十一日生徒取締ヲ置キ其掌務規定ヲ定ム

明治三十九年

三月二十九日勅令第四十六號ヲ以テ本校教授定員ヲ二十四人ニ改メラル 七月四日第四回卒業證書授與式ヲ舉行ス

明治四十年

六月二十八日勅令第二百四十七號ヲ以テ本校教授定員ヲ二

十六人、助教授七人ニ改メラル 七月一日第五回卒業證書授與式ヲ舉行ス 九月規則ヲ改正シ從來ノ生徒保證人ヲ廢シ試験制度ヲ改ム、又授業ハ主トシテ教科書ヲ用フルコトトス

明治四十一年

三月十二日文部省告示第七十八號ヲ以テ入學試験ニ關スル事務ハ復ヒ高等學校ニ於テ執行スルコト、ナル、二十三日生徒控所兼雨天体操場落成シ其引渡ヲ受ク、此月刺令第六十九號ヲ以テ本校教授定員ヲ二十七名ト改メラル 二十八日第六回卒業證書授與式ヲ舉行ス、九月寮費一ヶ月金七拾五錢ナリシヲ改メテ金九拾錢トス

明治四十二年

一月校務分掌規程ヲ改正シ主幹ヲ廢シ從來ノ分課ノ外更ニ生徒課ヲ増設ス又評議員規程ヲ定メ同時ニ評議員ヲ任命ス

四月勅令第八十八號ヲ以テ教授ノ定員ヲ二十八名ト改メラ
ル 六月十四日文部省令第十五號ヲ以テ高等學校大學豫科
學科課程中林學科志望者ニ數學ヲ削リ英語ヲ加ヘラレ地質
及礦物ヲ地質學鑛物學ト改メラル、又理農藥學志望者ニ動物
及植物ノ實驗ヲ加ヘラル 七月一日第七回卒業證書授與式
ヲ舉行ス 八月十九日文部省令第十九號ヲ以テ高等學校大
學豫科入學者選拔試驗規程中第一部ノ志望類ニ改正ヲ加ヘ
ラル、全日文部省令第十二號ヲ以テ大學豫科學科課程中、第
部丙類政治科志望者ノ外國語授業時數ヲ定メラル 九月寮
費金壹圓拾錢ニ改ム

明治四十三年

三月勅令第六十七號文部省直轄諸學校職員定員令ノ改正ニ
ヨリ本校助教授ノ定員ヲ二名ニ改メラル 四月二十一日文

部省令第九號ヲ以テ農科大學志望者ニ數學ヲ除カル 五月
文部省令第十一號ヲ以テ入學者選拔試驗無試驗檢定規程定
メラル 七月二日第八回卒業證書授與式ヲ舉行ス 十一月
一日文部省令第二十六號ヲ以テ大學豫科學科課程中倫理ヲ
修身ニ改メ同時ニ同科ノ授業時數ヲ增加セララル十六日 御
沙汰ニヨリ恒久王殿下台臨アラセララル、二十五日學校長酒井
佐保第三高等學校長ニ任セラレ全日高知縣立第一中學校長
金子銓太郎學校長ニ任ゼラル

明治四十四年

一月二十三日各部第一、二年級及第二、三年級ニ修身科ノ授業ヲ開
始ス 四月二十六日文部省令第二十一號ヲ以テ高等學校大
學豫科入學者選拔試驗無試驗檢定規程中推薦學校ノ種類ヲ
加ヘラル 七月一日第九回卒業證書授與式ヲ舉行ス 七月

三十一日勅令第二百十七號ヲ以テ高等中學校令發布セラレ
高等學校令廢止セララル但シ本令ハ明治四十六年四月一日ヨ
リ施行セララル、モノニシテ且ツ高等學校大學豫科ハ其際現
ニ在學スル者ノ爲メニ明治四十八年八月三十一日迄存置セ
ラル、全日文部省令第二十五號ヲ以テ高等中學校規程發布セ
ラル 九月一日授業料額ヲ一學年金參拾五圓ニ改ム、四日校
長室教官室事務室並ニ食堂ノ位置ヲ變更ス

明治四十五年

七月一日生徒集會所ノ新築落成シ引渡ヲ受ク六日第十回卒
業生ニ卒業證書ヲ授與ス本年ハ定例ノ式ヲ舉グズ三十日
明治天皇崩御即日 今上天皇踐祚全日元號ヲ大正ト改メ
ラル

三、關係諸法令

(一) 高等學校令抄(明治廿七年六月)

第二條 高等學校ハ專門學科ヲ教授スル所トス但帝國大學
ニ入學スル者ノ爲メ豫科ヲ設クルコトヲ得

第三條 高等學校ハ其附屬トシテ低度ナル特別學科ヲ設ク
ルコトヲ得

第四條 高等學校ニ於テ設クル所ノ學科及講座ノ數ハ文部
大臣之ヲ定ム

(二) 高等學校大學豫科學科規程

(明治三十三年八月文部省令第十三號發布
明治四十三年十一月文部省令第二十六號迄數次改正)

第一條 高等學校大學豫科ノ學科ヲ分テ第一部 第二部 及

第三部 トス

第一部ノ學科ハ法科大學及文科大學志望者ニ第二部ノ學科ハ醫科大學ノ藥學科工科大学理科大学理工科大学及農科大學志望者ニ第三部ノ學科ハ醫科大學志望者ニ課スルモノトス

第二條 第一部ノ學科ハ修身、國語、及漢文、外國語、歷史、論理及

心理、法學通論、體操トス

前項ノ學科ノ外文科大學志望者ニハ經濟通論ヲ課ス

前二項ノ學科中文科大学哲學科志望者ニハ論理及心理ヲ

缺キ數學物理ヲ課ス

外國語ハ英語、獨語及佛語ノ中ニ就キ二種ヲ選ハシム

第一項ノ學科ノ外法科大学志望者ニハ隨意科トシテ羅旬語ヲ課スルコトヲ得

第三條 第二部ノ學科ハ修身、國語、外國語、數學、物理、化學、地質

及鑛物、圖書、體操トス

前項ノ學科ノ外醫科大學ノ藥學科理科大学ノ動物學科、植

物學科、地質學科、鑛物學科、並ニ農科大学志望者ニハ動物及

植物ヲ課シ工科大学及理工科大学ノ土木工程學科、機械工學

科、電氣工學科、採鑛及冶金學科、工科大学ノ造船學科、建築學

科、理科大学及理工科大学ノ數學科、物理學科、理科大学ノ星

學科並ニ農科大学ノ農學科、農藝化學科、林學科、志望者ニハ

測量ヲ課ス

外國語ハ英語ノ外獨語又ハ佛語ヲ選ハシム但シ工科大学

及理工科大学ノ電氣工學科、應用化學科、製造化學科、採鑛及

冶金學科並ニ農科大学志望者ニハ必ス獨語ヲ選フヘキモ

ノトス

第一項ノ學科ノ外醫科大學ノ藥學科理科大學ノ動物學科
 植物學科、地質學科、礦物學科並ニ農科大學ノ獸醫學科志望
 者ニハ隨意科トシテ羅甸語ヲ課スルコトヲ得
 第四條 第三部ノ學科ハ修身、國語、外國語、羅甸語、數學、物理化
 學、動物及植物、體操トス
 外國語ハ獨語ノ外英語又ハ佛語ヲ選ハシム
 第五條 各部各學科ノ每週授業時數ハ左ノ如シ

第一部

修 身	學 科	第一	第二	第三
		年	年	年
		一	一	一
		年	年	年

國語及漢文	六	五	四
英語	(九)	(九)	(八)
獨語	(九)	(九)	(八)
佛語	(九)	(九)	(八)
歷史	三	三	三
論理及心理		二	
法學通論			二
經濟通論			[二]
體操	三	三	三
計	三一	三二	三二 一九 一

備考 表中()ハ選擇科目ノ時數ヲ表シ []ハ文科大學志望者ニノミ課スル時數ヲ表ス

文科大學哲學科志望者ニハ第三年ニ於テ國語ヲ缺ク且之ニ課スベキ數學物理ノ授業時數左ノ如シ

物	學科	
	數學	物理
	第一	第二
	年	年
	二	三
	年	年
	二	三
	年	年

英語ヲ以テ入學シ法科大學ノ獨逸法又ハ佛蘭西法ヲ選修スル法律學科竝ニ文科大學ノ獨逸文學科佛蘭西文學科ヲ志望スル者ニ對シテハ外國語ノ授業時數ヲ左ノ如ク變更ス

英	學科	
	獨語	佛語
	第一	第二
	年	年
	四	四
	年	年
	四	四
	年	年
	二	四
	年	年

英語ヲ以テ入學シ法科大學ノ政治學科ヲ志望スル者ノ外國語ノ授業時數ハ本人ノ志望ニ依リ前項ニ依ルコトヲ得隨意科トシテ法科大學志望者ニ課スベキ羅甸語ノ授業時數左ノ如シ

羅	學科	
	甸語	語
	第一	第二
	年	年
	二	三
	年	年
	二	三
	年	年

第二部

獨	學科	
	英	國
	第一	第二
	年	年
	八	七
	年	年
	八	七
	年	年
	三	一
	年	年
	一	一
	年	年
	四	四
	年	年

計	體操	圖書	地質及礦物	化學	物理	數學
三二	三	四				五
三二	三	四		三	三	四
三〇	三	二	二	(講義) 三 (實驗) 二 五	三	六

第三年ニ於テ醫科大學ノ藥學科理科大學ノ動物學科、植物學科、地質學科、礦物學科並ニ農科大學志望者ニハ數學ヲ缺キ工科大學及理工科大學ノ土木工程學科、機械工學科、工科大學ノ造船學科、建築學科、理科大學及理工科大學ノ數學科、物理學科及理科大學ノ星學科志望者ニハ化學ノ實驗ヲ缺キ

理科大學ノ各學科、理工科大學ノ數學科、物理學科、純正化學科及農科大學志望者ニハ圖書ヲ缺ク
醫科大學ノ藥學科理科大學ノ動物學科、植物學科、地質學科、礦物學科並ニ農科大學志望者ニ課スヘキ動物及植物ノ授業時數左ノ如シ

學科	學年	第一年	第二年	第三年
動物及植物				(講義) 二 (實驗) 四 六

工科大學及理工科大學ノ土木工程學科、機械工學科、電氣工學科、採礦及冶金學科、工科大學ノ造船學科、建築學科、理科大學及理工科大學ノ數學科、物理學科、理科大學ノ星學科並ニ農科大學ノ農學科、農藝化學科、林學科志望者ニ課スヘキ測量ノ授業時數左ノ如シ

學 科	獨 語	第 一 年	第 二 年	第 三 年
	英 語 又 ハ 佛 語	七	七	五
		九	九	八

第六條 前條ノ各學科ハ生徒卒業後分科大學各學科ノ授業ヲ受クルニ足ルベキ豫備ノ程度ヲ以テ標準トナスベシ

第七條 學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ分科大學某科志望者ニ課スベキ一學科若シクハ數學科ヲ其學校ニ置カザルコトヲ得

附 則

第八條 本令ハ明治三十三年九月一日ヨリ施行ス

第九條 本令施行ノ際現ニ第二年又ハ第三年ノ課程ヲ修ムル者ニ就キテハ其卒業ニ至ルマテ文部大臣ノ許可ヲ受ケ

舊規程ニ依リ若クハ新舊ノ規程ヲ斟酌シテ之ヲ教授スルコトヲ得

(三) 第六高等學校設置(明治三十三年四月
文部省令第七號)

第六高等學校ニ大學豫科ヲ設置シ明治三十三年九月十一日
ヨリ授業ヲ開始ス

(四) 文部省直轄諸學校官制(抄)(明治二十六年八月勅令第八十六號ヲ以テ
制定セラレタルヨリ附後明治四十五年三
月勅令第六十六號迄數次ノ改正ヲ經

第一條 文部省直轄諸學校ハ左ノ如シ

- 東京高等師範學校
- 廣島高等師範學校
- 東京女子高等師範學校
- 奈良女子高等師範學校
- 盛岡高等農林學校
- 鹿兒島高等農林學校
- 上田蠶絲專門學校

- 東京高等商業學校
- 神戸高等商業學校
- 長崎高等商業學校
- 山口高等商業學校
- 小樽高等商業學校
- 第一高等學校
- 第二高等學校
- 第三高等學校
- 第四高等學校
- 第五高等學校
- 第六高等學校
- 第七高等學校造士館
- 第八高等學校

千葉醫學專門學校
 岡山醫學專門學校
 金澤醫學專門學校
 長崎醫學專門學校
 新潟醫學專門學校
 東京高等工業學校
 大阪高等工業學校
 京都高等工藝學校
 名古屋高等工業學校
 熊本高等工業學校
 米澤高等工業學校
 秋田鑛山專門學校
 東京外國語學校

東京美術學校
 東京音樂學校
 東京盲學校
 東京聾啞學校

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク
 校長 教授 生徒監 助教授 書記

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

第九條 生徒監ハ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス
 生徒監ハ校長ノ指揮ヲ承ケ專ラ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第十七條 專任教官中其學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時講師ヲ囑託シ其學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十八條 文部大臣ハ高等師範學校女子高等師範學校高等學校及ヒ東京高等工業學校教官ノ中ヨリ各附屬學校主事東京教育博物館主事附屬幼稚園主事專門學部主事ヲ命シ其事務ヲ掌ラシムルコトヲ得

第十九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其委員ハ文部大臣之ヲ命ス

(五) 文部省直轄諸學校職員定員令(抄)

(明治三十五年勅令第九十九號ヲ以テ制定セラレ爾後明治四十三年三月勅令第六十七號迄數次ノ改正ヲ經)

第六高等學校	校長	一	教授	二八	生徒監	補	助教授	二	書記	六
--------	----	---	----	----	-----	---	-----	---	----	---

(六) 雇外國人使用方(明治二十六年九月勅令第九十六號)

帝國大學及文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ノ必要アルトキハ帝國大學總長及直轄諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムルコトヲ得

(七) 高等官々等俸給令(抄)(明治四十三年三月勅令百三十四號ニテ制定明治四十五年三月勅令第六十七號ニテ追加)

第一條 親任式ヲ以テ叙任スル官ヲ除クノ外高等官ヲ分テ九等トス親任式ヲ以テ叙任スル官及一等官二等官ヲ勅任

官トシ三等官乃至九等官ヲ奏任官トス

第四條 初メテ高等文官ニ任セラル、者ノ官等ハ六等以下トス

高等文官ニシテ退官シタル者再ヒ高等文官ニ任セラル、場合ニ於テハ其官等ハ前官ノ官等以下トス但シ前官々等在職年數二年ヲ超エタル者ハ前官ノ官等ニ一等ヲ進ムルコトヲ得

前官ノ官等七等以下ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス陸シテ六等官ニ至ルコトヲ得

第五條 高等文官ノ官等ハ別ニ進級ノ例ヲ定メタルモノ及七等以下ノモノヲ除キ在職二年ヲ超ユルニ非レハ陸叙スルコトヲ得ス

第十條 第三項

文部省直轄諸學校教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ二十七人ヲ限リ高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得但シ各校二人ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十一條 高等文官死亡シタルトキハ在職最終年俸三分ノ一ヲ其遺族ニ給ス
前項遺族ト稱スルハ官吏遺族扶助法ノ定ムル所ニ依ル終身官ハ其ノ在職中死亡シタル者ニ限リ前二項ノ規定ヲ適用ス

第三十三條 俸給ハ新任増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス

休職又ハ待命ヲ命セラレ年俸全額ヲ給セサル場合ハ減俸ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第三十四條 廢官、退官、退職及死亡ノトキハ年俸ヲ月割計算

依ル

第三條 判任文官ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ増給スルコトヲ得ス但六級俸以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 判任文官ニシテ一級俸ヲ受ケ五年ヲ超エ事務練熟優等ナル者ハ特ニ百貳拾圓迄ヲ給スルコトヲ得

第五條 判任文官ノ俸給ハ月俸四拾圓未滿ノ者ニ限リ級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得但シ各所定ノ最低俸級額ヲ下ルコトヲ得ス

第十三條 判任官死亡シタルトキハ在職最終月俸三ヶ月分ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項遺族ト稱スルハ官吏遺族扶助法ノ定ムル所ニ依ル

第十四條 月俸ハ毎月下旬之ヲ支給ス

前項ノ外俸給ノ支給ニ關シテハ高等官々等俸給令ノ例ニ

依ル

(別表)

級	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸	八級俸	九級俸	十級俸	十一級俸	十二級俸
月額	九五 ^円	七五 ^円	六五 ^円	五五 ^円	五〇 ^円	四五 ^円	四〇 ^円	三五 ^円	三〇 ^円	二五 ^円	二〇 ^円	一五 ^円

(九) 文部省直轄諸學校教官俸給ノ支給ニ關スル件

(勅令第四百五十三年三月)

第一條 文部省直轄諸學校教官ノ俸給ハ其ノ授業ノ時間又ハ學科ノ難易輕重ニ依リ最低額以下ヲ給スルコトヲ得

第二條 文部省直轄諸學校教官ニシテ一校又ハ數校ノ教官ヲ兼任スル者ニハ本官及兼官ニ於ケル授業ノ時間又ハ學科ノ難易輕重ニ依リ其俸給額ヲ分割シテ各學校ヨリ給ス

關係諸法令(教官俸給ノ件)

ルコトヲ得

第三條 文部省直轄諸學校ノ囑託講師ニハ教官俸給額ノ中ヨリ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

(十) 高等學校大學豫科入學者資格(明治四十一年三月文部省令第九條)

高等學校大學豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ且ツ體格検査ヲ受ケ之ニ合格シタル者タルベシ

一 中學校ヲ卒業シタル者

二 專門學校入學者檢定規程ニ依ル試験檢定ニ合格シタル者

三 專門學校入學者檢定規程第八條第一號ノ指定ヲ受ケタル者但シ某學校ノ入學ニ限リ指定ヲ受ケタル者ヲ除ク
明治二十七年文部省令第十六號ハ之ヲ廢止ス

(十一) 高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程(明治四十二年

四月二十一日文部省令第十一號發布全年八月十九日

文部省令第十九號ニテ改正)

第一條 選拔試驗ハ入學志望者ノ數當該高等學校生徒募集人員ニ超過シタルトキ之ヲ行フ

第二條 各高等學校ニ入學セシムベキ生徒ノ概數及選拔試驗施行ノ期日ハ文部大臣之レヲ告示ス

第三條 選拔試驗ノ學科目ハ中學校ノ學科目(法制經濟及唱歌ヲ除ク)中ニ就キ毎回文部大臣之ヲ告示ス

前項試驗ハ中學校卒業ノ程度ニ據ル

第四條 選拔試驗ハ高等學校長之ヲ行フ

第五條 選拔試驗ヲ受ケントスルモノハ其入學後修業セントスル部類ヲ指定スベシ

指定スヘキ部類ハ左ノ如シ

第一部甲類
英語法律科
政治科
經濟科
商科

第一部乙類
英語文科

第一部丙類
獨語法律科
政治科
獨語文科

第一部丁類
佛語法律科
政治科
佛語文科

第二部甲類
工科

第二部乙類
理科
農科
醫科ノ内藥學科

第三部
醫科

入學志望者ハ志望類二箇以上(同一部内ノ類ニ限ル)ヲ併セ指定スルコトヲ得此場合ニ於テハ其志望類ノ順位ヲ定ムベシ

第六條 選拔試驗ヲ受ケタル者ハ之ヲ第一部、第二部及第三部ノ三部ニ分テ其試驗ノ成績順ニ依リ各高等學校ニ於テ各部募集ノ総員ト同數ノ人員ヲ選出シ其ノ内ニ就キ左ノ方法ニ依リ入學セシムベシ
一 選拔試驗成績順ニ依リ本人ノ指定スル第一ノ志望類ニ配當ス

二 第一號ノ場合ニ於テ成績相同シキトキハ抽籤ニ依ル
 三 第一號第二號ニ依リ配當ノ結果本人ノ指定スル第一ノ
 志望類已ニ滿員トナリ配當スルコトヲ得サル者ニ就テ
 ハ更ニ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第二以下ノ志望類
 ニシテ缺員アルモノニ配當ス
 四 第三號ノ場合ニ於テ成績相同シキトキハ志望類ノ順位
 ニ依ル
 五 第三號ノ場合ニ於テ成績及志望類ノ順序相同シキトキ
 ハ抽籤ニ依ル
 六 前數號ニ依リ配當ノ結果本人ノ指定スル志望類悉ク滿
 員トナリタルトキハ入學スルコトヲ得ザルモノトス
 前項ニ依リ配當ノ結果又ハ事故ノ爲メ入學者ニ缺員ヲ生
 シタルトキハ前項選出人員以外ニ就キ更ニ前項ノ方法ニ

依リ之ヲ補填スベシ

(三) 高等學校大學豫科入學者選拔試驗無試驗檢定規程

(明治四十三年五月文部省令第十一號發布
全四十四年四月二十六日文部省令第二十一號ニテ追加)

第一條 各高等學校ハ大學豫科各部ノ入學志望者、募集人員
 ニ超過シタルトキハ各部各類ニ於ケル募集人員ノ五分ノ
 一以內ニ限り無試驗檢定ニ依リ入學志望者ノ入學ヲ許可
 スルコトヲ得
 第二條 無試驗檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ有シ其
 ノ卒業シタル中學校長ノ推薦シタル者ニ限ル
 一 品行方正ニシテ体格強健ナルコト
 二 無試驗檢定ヲ受ケントスル年ニ於テ中學校ヲ卒業シタ
 ルコト

三 第三學年以上繼續シテ同一中學校ニ在學シタルコト

四 第三學年以上ノ學業成績左ノ標準ニ該當スルコト

(イ) 第三學年並第四學年ノ學年試驗ニ於ケル學業成績其ノ合格者總數ノ四分ノ一以內ニ相當スル順位ニアリタルコト

(ロ) 卒業試驗ニ於ケル學業成績其ノ卒業者總數ノ十分ノ一以內ニ相當スル順位ニアリタルコト

第三條 前條ノ資格ヲ有スル入學志望者ヨリ請求アリタルトキハ當該中學校長ハ左ノ様式ニ依リ推薦書ヲ調製シ入學出願期限内ニ直接ニ當該高等學校長ニ提出スヘシ

(推薦書式略ス)

第三條ノ二 第二條ノ規定ハ專門學校入學者檢定規程第八條第一號ノ指定ヲ受ケタル者ノ卒業シタル學校ニ關シ之

ヲ準用ス

第四條 無試驗檢定ハ各高等學校所定ノ入學出願手續ヲ完了シタル者ニ限り之ヲ行フ

第五條 無試驗檢定ニ依リ入學ヲ許可セスト決定シタル者ハ選拔試驗ヲ受クルモノトス

第六條 第三條ノ推薦書ハ選拔試驗ヲ同時ニ施行スル二個以上ノ高等學校ニ提出スルコトヲ得ス

前項ニ違反シタル場合ニ於テハ其無試驗檢定ハ之ヲ無効トス

附 則

第七條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(公布ノ日、明治四十三年五月十四日ナリ)

(三) 文部省所管ノ學校二個以上ニ入學ヲ出願シタル者扱方ノ件

(明治四十三年九月六日文部省告示第二百十三號) 並明治四十五年五月十八日文部省告示第五百十四號)

同一人ニシテ東京帝國大學農科大學農學實科同林學實科同獸醫學實科東北帝國大學農科大學豫科同附設農學實科同附設土木工學科同附設林學科同附設水産學科東北帝國大學附屬醫學專門部同附設工學專門部並文部省直轄諸學校中ノ二個以上ノ學科若クハ學校ニ入學ヲ出願シタル者ハ其最前ニ入學許可セラレタル學科專門部若クハ學校ニ入學スヘキモノトス但シ同時ニ二個以上ノ學科專門部若クハ學校ニ入學ヲ許可セラレタル者ノ入學スヘキ學科專門部若クハ學校ハ本人ノ選擇ニ任ス

(四) 文部省直轄學校生徒他ノ文部省直轄學校ノ入學試験ヲ受クルノ件

(明治三十八年文部省令第十八號)

文部省直轄諸學校ノ生徒ニシテ豫メ學校長ノ許可ヲ受ケズ他ノ文部省直轄諸學校ノ入學試験ヲ受ケタルトキハ其入學試験ハ無効トス

(五) 文部省直轄學校外國人特別入學規程(明治三十四年十一月) 文部省令第十五號)

第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規程ニ依ラス所定ノ學科ノ一科若クハ數科ノ教授ヲ受ケントスル者ハ外務省在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介アルモノニ限り特ニ之ヲ許可スルコトアルベシ
第二條 前條ニ依リ教授ヲ受ケントスル外國人ハ前條ノ紹介書ヲ添へ帝國大學總長若クハ學校長ニ願出ツベシ

第三條 帝國大學總長若クハ學校長ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ相當ノ學力アリト認メタル者ハ之ヲ許可スヘシ但シ學校ノ設備上差支アル場合ハ此限ニアラス

第四條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニシテ學科修了ノ証明書ヲ受ケントスル者ニハ試驗ノ上之ヲ附與スベシ

第五條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニハ入學試驗料及授業料ヲ徵收セサルコトヲ得

第六條 帝國大學總長及學校長ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

(其) 文部省直轄學校外國人特別入學規程ヲ臺灣人若クハ朝鮮人ニ準用ノ件

(明治四十四年四月文部省令第十六號)

文部省直轄學校外國人特別入學規程ハ臺灣人若クハ朝鮮人

ニ之ヲ準用ス但シ其ノ入學ニ關シテハ臺灣總督府又ハ朝鮮總督府ノ紹介ヲ要ス

(七) 大學豫科學力檢定規程 (明治二十六年六月十四日文部省訓令)

第一 大學豫科學力檢定試驗ハ帝國大學分科大學ヨリ其入學志願者ノ學力檢定試驗執行ノ通告アル場合ニ限り高等學校ニ於テ施行スルモノトス

第二 大學豫科學力檢定試驗ハ高等學校大學豫科卒業ノ程度ニ依ル但官立府縣立中學校又ハ之ト同等ト認ムヘキ公立中學校ノ卒業證書ヲ有セサル者ニハ先ツ中學校ノ學力檢定試験ヲ行フモノトス

第三 大學豫科學力檢定試験ハ毎年七月又ハ九月ニ於テ一回之ヲ施行ス

- 第四 大學豫科學力檢定試験ヲ受ケントスル者ハ受験料金
五圓ヲ納ムヘシ但シ既納ノ受験料ハ受験者ノ都合ニ依リ
試験ヲ受ケサルコトアルモ返付セス
- 第五 試験合格者ニハ左式ノ証明書ヲ交付スヘシ
(証明書式略ス)

(式) 行幸啓ノ節學生生徒敬禮方(明治四十三年八月文部省訓令第十八號發布
明治四十四年七月文部省訓令第十一號ニテ改正)

- 一 武裝携銃ノ場合
學校長及職員ハ全隊ノ右翼ニ指揮者ハ各中隊ノ右翼ニ位
置シ豫メ劍ヲ銃ニ裝セシメ前驅ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」
ノ號令ヲ下シ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車カ中隊ノ右
翼約十歩ニ近キタルトキ「捧銃」ノ號令ニテ一齊ニ捧銃ヲナ
サシメ御車ガ中隊ノ左翼約十歩ヲ過ギタルトキ元ノ姿勢

ニ復セシム

御車ガ中隊ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長、職員及指揮
者ハ左翼ニ位置ス

一 武裝セサル場合(女生徒ヲ含ム)

學校長及職員ハ全列ノ右翼ニ指揮者ハ各組ノ右翼ニ位置
シ前驅ノ見エタルキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ一齊ニ脱帽セ
シメ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車カ指揮者ノ前ニ達シ
タルトキ「禮」ノ號令ニテ敬禮セシメ(体ノ上部ヲ約三十度前
方ニ屈セシム)徐ニ元ノ姿勢ニ復セシム
御車ガ組ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長、職員及指揮者
ハ左翼ニ位置ス

(五) 高等中學校令

(明治四十四年七月三十一日
勅令第二百十七號)

- 第一條 高等中學校ハ中學校ヲ修了セル者ニ對シ更ニ精深ナル程度ニ於テ高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス
- 第二條 高等中學校ハ官立トシ其數ハ全國ヲ通シテ二十校以內トシ一校ノ生徒定員ハ四百八十人以内トス
- 第三條 高等中學校ノ修業年限ハ二年五月乃至二年六月トス
- 第四條 高等中學校ノ學科ヲ分チテ文科及理科トス
- 第五條 高等中學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十六年以上ニシテ之ト同等ノ學力アリト檢定セラレタル者タルベシ
- 第六條 高等中學校ノ學科目及ヒ其程度竝入學退學及懲戒ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

- 第七條 高等中學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經ザル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ一時之ヲ使用スルコトヲ得
- 高等中學校ノ教科書ノ檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第八條 本令ニ依ラザル學校ハ高等中學校ト稱スルコトヲ得ス

附 則

- 第九條 本令ハ明治四十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十條 高等學校令ハ之ヲ廢止ス
- 第十一條 高等學校ハ高等中學校ト改稱ス
- 前項ノ高等中學校ニハ當分ノ内第二條ノ生徒定員ニ關ス

ル規定ヲ適用セズ

第十二條 高等學校大學豫科ハ本令施行ノ際現ニ在學スル者ノ爲メニ明治四十八年八月三十一日迄之ヲ存置ス

第十三條 他ノ勅令中高等學校トアルハ高等中學校ト看做ス

(子) 高等中學校規程 (明治四十四年七月三十一日 文部省令第二五號)

第一條 文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、心理、及論理、數學、物理及化學、法制及經濟、體操トス
理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、博物、物理及化學、圖畫、法制及經濟、體操トス
外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二外國語及文科ノ數學、物理及化學並理科ノ法制及經濟ハ隨意科目トス

第二條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス
修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ國家社會及家族ニ對スル責務並人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ特ニ我國道德ノ特質ヲ悟ラシムベシ

第三條 國語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表ハスノ能ヲ得シメ文學上ノ趣味ヲ養ヒ智德ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス
國語及漢文ハ文科ニ在リテハ近古、中古及上古ノ國文並普通ノ漢文ヲ講讀セシメ又國語ノ作文ニ習熟セシメ國語文法及國文學史大要ヲ授ケ理科ニ在リテハ主トシテ普通ノ

漢文ヲ授ケ又國語ノ作文ニ習熟セシムベシ

第四條 外國語ハ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ兼テ智德ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス
外國語ハ發音綴字、讀方、譯解、話方、作文、書取、及文法大要ヲ授クベシ

第五條 歴史ハ歷史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷邦國盛衰ノ由ル所ヲ理會セシメ特ニ我國ノ發達ヲ詳ニシ國體ノ特異ナル所以ヲ明ニシ國民性格ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス
歴史ハ日本歴史、東洋史及西洋史ヲ授クベシ

第六條 地理ハ我國及諸外國ノ國勢ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス
地理ハ我國及諸外國ノ政治經濟ニ關スル事項並我國ト諸

外國トノ政治經濟上ノ關係等ヲ授クベシ

第七條 心理及論理ハ心ニ關スル基本ノ知識ヲ得シメ兼テ思考ヲ練リ智德ノ修養ニ資スルヲ以テ要旨トス
心理及論理ハ各種ノ精神作用、思考ノ原則及其ノ方法ノ概要ヲ授クベシ

第八條 數學ハ數理ヲ會得セシメ計算應用ニ熟セシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス
數學ハ文科ニ在リテハ數學雜論ヲ授ケ理科ニ在リテハ代

數三角法、初等解析幾何及初等微分積分ヲ授クヘシ
第九條 博物ハ天然物ニ關スル知識ヲ與ヘ兼テ觀察ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス
博物ハ植物學、動物學、礦物學及地質學ノ一斑ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十條 物理及化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其法則ヲ理會セシメ兼テ觀察及思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

物理及化學ハ文科ニ在リテハ物理及化學ニ關シ重要ナル事項ヲ授ケ、理科ニ在リテハ力學初步、物性論、音響學、熱學、光學、磁氣學、電氣學、理論化學、無機化學及有機化學ノ一斑ヲ授クヘシ、又理科ニ在リテハ主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十一條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民生活ニ必要ナル知識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ法學通論及經濟通論ヲ授クヘシ

第十二條 圖書ハ形體ヲ正確ニ畫クノ方法並其ノ理ヲ會得セシメ兼テ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

圖書ハ平面幾何畫、射影圖法、圖法幾何、陰影法及遠近ヲ授ク

ベシ

第十三條 體操ハ身体ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメテ、身體ヲ強健ナラシメ動作ヲ機敏ナラシメ快活剛毅堅忍持久ノ精神ト規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ教練及體操ヲ授クベシ、又擊劍及柔術ヲ加フルコトヲ得

第十四條 文科及理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルベシ

學科及學年	文科		理科	
	第一學年	第二學年	第一學年	第二學年
修身	一	一	一	一
國語及漢文	六	五	二	二

第一外國語	第二外國語	地歴 理史	心理及論理	數學	物理及化學	博物	圖書	法制及經濟	體操	計
九	九	三	二	隨意(二)	隨意(二)				三	三三三
九	九	四						二	三	三三三
七	七			四	物理 化學	植物、動物			三	三三三
五	六			五	物理 化學	礦物、地質		隨意(二)	三	三三三

理科第二學年ノ圖書ハ生徒ノ志望ニ依リ之ヲ課セザルコ

トヲ得此場合ニハ其ノ每週教授時數ヲ第一外國語第二外國語ニ配當スルコトヲ得

本表ノ外理科ニ在リテハ第一學年ニ於テ物理及化學實驗凡二十回、博物實驗凡十五回、第二學年ニ於テ物理及化學實驗凡二十五回、博物實驗凡十回ヲ課ス但シ各學科目ノ實驗總回數ヲ變更セザル限リハ各學年ノ實驗回數ヲ増減スルコトヲ得

修身及體操ヲ除キ各學科目ノ教授總時數ヲ減セザル限リハ各學年ニ於テ前表各學科目ノ每週教授時數ヲ變更スルコトヲ得、但シ每週教授時數ノ合計ハ隨意科目ノ教授時數ヲ除キ三十三時ヲ超ユルコトヲ得ス

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第一外國語ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム、此場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科及學年	文		理	
	第一學年	第二學年	第一學年	第二學年
第一外國語	一四	一四	一二	一二
第二外國語	四	四	二	二

本表ノ場合ニ於テハ理科第二學年ノ圖書ハ之ヲ課セス

第十五條 第一學年ハ四月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終リ第二學年ハ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル第一學年ハ分チテ四學期トシ第二學年ハ分チテ三學期トス

第十六條 教授日數ハ第一學年二百八十五日以上、第二學年

二百十日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文

部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此限ニアラズ

試験及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第十七條 傳染病豫防ノ爲メ必要ナルトキ其ノ他非常變災

アルキハ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第十八條 紀元節、天長節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ

參集シテ祝賀ノ式ヲ行フベシ

第十九條 高等中學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等ノ

學力アリト檢定セラルヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ且

體格檢査ヲ受ケ之ニ合格スルコトヲ要ス

一 專門學校入學者檢定規程ニ依ル試験檢定ニ合格シタル者

二 專門學校入學者檢定規程第八條第一號ノ指定ヲ受ケタル者、但シ某學校ノ入學ニ限り指定ヲ受ケタル者ヲ除ク

第二十條 第二學年ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ノ課程ヲ卒リタル者ト同等ノ學力ヲ有スル者タルベシ

前項入學者ノ學力ハ第一學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニ依リテ檢定スヘシ

第二十一條 生徒ニシテ退學シタル者、退學シタルトキヨリ一箇年ヲ經過セスシテ更ニ入學ヲ志願シタルトキハ同一學年以下ノ學年ニ限り入學ヲ許可スルコトヲ得

第二十二條 他ノ高等中學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學校長ハ正常ノ事由アリト認メタル場合ニ限り其ノ生徒ノ在學證明書及成績表ヲ移轉先學校ニ送付スヘシ

移轉先學校ニ於テハ缺員アル場合ニ限り前項生徒ノ轉學

ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ轉學ヲ許可スル生徒ハ試験ヲ行ハスシテ同一學年ニ編入スルコトヲ得

第二十三條 第一學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ正常ノ事由アリテ試験ニ缺席シタリ者ニ對シテ平素ノ學業ノ成績ノミヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得

或種類ノ學科目ニ就キテハ試験ヲ行ハザルコトヲ得

第二十四條 第一學年第三學期ノ終ニ於テ生徒ノ成績ヲ考查シ進級ノ見込ナシト認メタル者ハ其ノ年四月ニ於テ開始スル第一學年ニ編入スヘシ

第一學年ノ學年試験ニ合格セザル者ハ其ノ年四月ニ於テ開始スル第一學年ニ編入スヘシ

第二十五條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スベシ

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三 引續キ一箇年以上缺席シタル者
- 四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者
- 五 出席常ナラザル者

第二十六條 學校長ニ於テ正當ノ事由アリト認メタルトキハ生徒ノ休學ヲ許可スヘシ但シ兵役ニ服スル爲メ休學ヲ許可シタル期間ハ前條第三號ノ缺席日數ニ算入セス

第二十七條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

附 則

本令ハ明治四十六年四月一日ヨリ施行ス

明治四十八年八月三十一日マテ存置スル高等學校大學豫科ニ關シテハ仍從來ノ規程ヲ適用ス

明治四十八年八月三十一日マテニ高等學校大學豫科ヲ卒業セザル者アルトキハ學校長ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ高等中學校ニ編入スルコトヲ得

四、校 則

第一章 校 規

第一款 總 則

第一條 本校ハ明治二十七年勅令第七十五號第二條ニ基キ
 明治三十三年文部省令第七號ニ依リ大學豫科ヲ置ク
 第二條 本校ノ學科ハ明治三十三年文部省令第十三號所定
 ノ大學豫科第一部第二部及第三部トス

第二款 學科課程

第一條 本校大學豫科ノ學科ヲ分チテ第一部第二部及第三
 部トス
 第一部ハ法科大學及文科大學志望者ニ課スルモノニシテ
 其學科ハ左ノ如シ

修身國語及漢文外國語歷史論理及心理法學通論體操

文科大學志望者ニハ前項ノ學科外ニ經濟通論ヲ課ス

文科大學哲學科志望者ニハ前二項ノ學科中論理及心理

ヲ缺キ數學物理ヲ課ス

外國語ハ英語及獨語ヲ課ス

法科大學志望者ニハ第一項ノ學科外ニ隨意科トシテ羅

旬語ヲ課ス

第二部ハ醫科大學ノ藥學科理科大學工科大學理工科大學

及農科大學志望者ニ課スルモノニシテ其學科ハ左ノ如シ

修身國語外國語數學物理化學地質及礦物圖書體操トス

醫科大學ノ藥學科理科大學ノ動物學科植物學科地質學

科礦物學科並ニ農科大學志望者ニハ前項學科ノ外ニ動

物及植物ヲ課シ工科大學及理工科大學ノ土木工學科機

械工學科電氣工學科採礦及冶金學科工科大学ノ造船學科建築學科理科大学及理科大学ノ數學科物理學科理科大学ノ星學科並ニ農科大学ノ農學科農藝化學科林學科志望者ニハ測量ヲ課ス

外國語ハ英語及獨語ヲ課ス

醫科大学ノ藥學科理科大学ノ動物學科植物學科地質學科礦物學科並ニ農科大学ノ獸醫學科志望者ニハ第一項ノ學科ノ外ニ隨意科トシテ羅旬語ヲ課ス

第三部ハ醫科大学志望者ニ課スルモノニシテ其學科左ノ如シ

修身、國語、外國語、羅旬語、數學、物理、化學、動物及植物、體操トス

外國語ハ獨語ノ外英語ヲ課ス

第二條 各學科每週授業時數左ノ如シ

學科	第一學年		第二學年		第三學年	
	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期
修身	一	一	一	一	一	一
國語及漢文	六	五	九	九	四	四
英語	九	九	九	八	八	八
獨語	九	九	九	八	八	八
羅旬語						
歷史	三	三			三(二)	三
論理及心理			二			
法學通論						二

(一) 大學豫科第一部 (英法科、政治科、經濟科、商科)

表中()印アルハ隨意學科トス

體操	計	學科							體操
		身	國語及漢文	英語	獨語	羅句語	歷史	論理及心理	
三	三一	一	六	四	一四	三		三	
三	三一	一	五	四	一四	三	二	三	
三	二九	一	四	四	二			二	
		(二) 大學豫科第一部(獨法科、政治科)							
三	三一	一	六	四	一四	三		三	
三	三一	一	五	四	一四	三	二	三	
三	二九	一	四	四	二			二	
		第三年級每週時數							三
		第二一年級每週時數							三
		第二二年級每週時數							三
		第一一年級每週時數							三

英語ヲ以テ入學シ法科大學ノ政治學科ニ志望スル者ノ外國語ノ授業時數ハ本人ノ志望ニヨリ前表ニ依ルコトヲ得

(三) 大學豫科第一部(文科)

體操	計	學科				體操
		身	國語及漢文	英語	獨語	
三	三一	一	六	四	三	
三	三一	一	五	四	三	
三	二九	一	四	四	二	
		(三) 大學豫科第一部(文科)				
三	三一	一	六	四	三	
三	三一	一	五	四	三	
三	二九	一	四	四	二	
		第三年級每週時數				三
		第二二年級每週時數				三
		第一一年級每週時數				三

化學	學	三	講義三	實驗三
動物及植物	四	實驗三		
體操	三	三		三
計	三〇	三二		三一

第三款 學年學期及休業

- 第一條 學年ハ九月十一日ニ始マリ翌年九月十日ニ終ル
- 第二條 學年ヲ分チテ三學期トス
 - 第一學期 九月十一日ヨリ翌年一月七日マテ
 - 第二學期 一月八日ヨリ四月七日マテ
 - 第三學期 四月八日ヨリ九月十日マテ
- 第三條 休業日左ノ如シ

日曜日

第四款 入學及在學

- 第一條 入學ノ期ハ每學年ノ初トス
- 第二條 本校ニ入學スルコトヲ得ルモノハ明治四十一年三

- 本校紀念日 四月十九日
- 秋季皇靈祭 秋分日
- 神嘗祭 十月十七日
- 新嘗祭 十一月二十三日
- 紀元節 二月十一日
- 春季皇靈祭 春分日
- 冬季休業 十二月廿五日ヨリ翌年一月七日マテ
- 春季休業 四月一日ヨリ四月七日マテ
- 夏季休業 七月十一日ヨリ九月十日マテ

月十九日 文部省令第九號ニ該當スルモノタルヘシ

第三條 本校ヲ退學セシ者及除名セラレタル者再入學ヲ願フトキハ詮議ノ上之ヲ許可スルコトアルベシ

第四條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ規定ノ宣誓ヲナシ生徒名簿ニ記名シ且ツ九月十日迄ニ父兄若クハ父兄ニ代ハリテ其責ニ任スヘキ者ノ連署セル在學証書(第一號)書式ヲ差出スヘシ

第五條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ指定ノ期日迄ニ入學料金壹圓ヲ納ムヘシ

第五款 生徒心得

第一條 本校生徒タルモノハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ヲ奉體シ拳々服膺シテ須臾モ之ヲ忘ルヘカラス

第二條 本校生徒ハ左ノ五項ヲ服膺スベシ

第一項 忠孝ノ大義ヲ明ニシ愛國ノ精神ヲ發揮スベキ事

第二項 信義ヲ重シ廉恥ヲ尙ビ輕佻浮薄ノ舉動アルヘカ

ラザル事

第三項 志操ヲ固クシ學業ヲ勵ミ身体ヲ健全ニス可キ事

第四項 質素勤儉ヲ旨トシ言行一致ヲ期シ忍耐ノ氣風ヲ

養フベキ事

第五項 規律ヲ守リ禮讓ヲ重シ暴慢放肆ノ行爲アル可ラ

ザル事

第六款 進級及卒業

第一條 各學年ノ末ニ於テ各生徒ノ行狀、勤惰、學業成績等ヲ考查シ合格ノ者ハ進級若クハ卒業セシメ不合格ノ者ハ原

級ニ止ム

第二條 學業成績ハ日常ノ課業、通常試業並ニ必要上施行セ
ル場合ニハ學期試業ノ成績ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第一項 通常試業ハ課業進度ニ應シ教官ノ見込ニヨリ之
ヲ施行ス

第二項 學期試業ハ特ニ必要ト認ムル學科ニ限リ各學期
ノ末ニ於テ學年ノ始ヨリ當該學期ノ終ニ至ル間ニ履修
シタル課業ニ就テ施行ス

第三條 學業成績ノ考查ハ別ニ細則ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 前條ニヨリ原級ニ止メタル者ニハ次學年ノ始ヨリ
當該學級ノ全學科ヲ再修セシム

第五條 卒業成績ハ三學年間ノ學業成績及ヒ行狀勤怠等ヲ
考查シテ之ヲ定ム

第六條 所定ノ課程ヲ履修シ卒業セルモノニハ第二號書式
ノ卒業證書ヲ授與ス

第七款 特待生

第一條 品行方正學術優等ナル生徒ヲ選ヒテ本校ノ特待生
ト爲ス

第二條 特待生ハ每學年ノ終ニ於テ其學科ノ成績ニ依リ學
校長之ヲ選定ス

第三條 特待生ニシテ其資格ニ不適當ノ廉アリト認ムルト
キハ直チニ其待遇ヲ解除ス

第八款 休學

第一條 疾病又ハ已ムヲ得ザル事故ニヨリ三ヶ月以上修學

スルコト能ハサル見込ノ者ハ願ニヨリ其學年間休學ヲ許
可スルコトアルベシ

第二條 休學セント欲スル者ハ疾病ナレハ本校指定ノ醫師
又ハ公私病院ノ診斷書ヲ添ヘ父兄若クハ父兄ノ責ニ任ス
ベキ者ノ連署ヲ以テ願出ツベシ

第三條 休學ノ許可ヲ得タル者ハ次學年ノ始ヨリ其原級ニ
入リ修學セシム

一年志願兵役ノ爲メ休學ノ許可ヲ得タルモノハ滿期後
直チニ原級ニ復スルモノトス

第四條 休學ノ事由止ミタルトキハ許可ヲ得テ課業ニ就ク
コトヲ得

第五條 休學ハ同一學級ニアル間ハ一回ニ限ル但シ一年志
願兵役ノ爲メ休學セル者ハ此限ニアラズ

第九款 退學及除名

第一條 生徒疾病其他事故ニ依リ退學セント欲スルトキハ
其事由ヲ詳記シ父兄若クハ父兄ノ責ニ任スヘキ者ノ連署
ヲ以テ願出ツヘシ

第二條 生徒ハ學校長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ他學校
ノ入學試験ヲ受クルヲ得ス

第三條 左ノ各項ノ一ニ當ルモノハ除名ス

- 一 正當ノ事由ナクシテ引續キ三ヶ月以上缺席セル者又ハ
同期間出席僅ニ數回ニ止マル者
 - 二 屢遅刻缺席シ出席常ナラザル者
 - 三 二回引續キ同級ニ止マル者
- 但一年志願兵役ノ爲メ同級ニ止マル回級ヲ除ク

四 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナキ者
 五 授業料寮費ノ怠納十四日ニ及フ者
 第四條 除名ニ關シテハ前條ニ指定シタル場合ノ外臨機ノ處分ヲ爲スコトアルベシ

第十款 懲戒

第一條 品行不良或ハ校規風儀ヲ紊亂シ其他生徒ノ本分ニ背戾セル者ハ單ニ形跡ニ拘ハラズ主トシテ德義ニ基キ之ヲ懲戒ニ處ス
 第二條 懲戒ハ之ヲ分チテ戒飭、停學、禁足、放校ノ四トス
 第三條 戒飭ハ訓戒ヲ加ヘ停學ハ教室ニ於テ就學スルコトヲ停止シ禁足ハ生徒寮ヨリ外出スルヲ停止シ放校ハ本校ヨリ放逐スルモノトス

第十一款 授業料

第一條 授業料ハ一學年金參拾五圓トシ左ノ三期ニ分納セシム但明治四十三年以前ニ入學シタル者ノ授業料年額及分納額ハ尙ホ従前ノ規定ニ依ル
 第一期分金拾五圓九月自廿一日至廿五日
 第二期分金拾圓一月自廿一日至廿五日
 第三期分金拾圓四月自廿一日至廿五日
 前項納期ノ初日以後ニ入學ヲ許可サレタル者ハ入學ノ許可ヲ得タル日ヨリ七日以内ニ當該學期ノ授業料ヲ納入スヘシ
 第二條 授業料ハ缺課停學等ノ爲メ免除セズ
 但一年志願兵服役ノ爲メ休學スル者ニハ次期以降ノ分納

- 額ヲ免除シ其他ノ休學者ニハ其半額ヲ免除ス
 - 第三條 特待生ニ對シテハ授業料ヲ徴收セズ
 - 第四條 休學、退學、除名、放校等ノ場合ニ於テモ既納ノ授業料ハ還附セズ
 - 第五條 休學者休學ノ事故止ミテ課業ニ就キタルトキハ當期分ノ授業料全額ヲ徴收ス
 - 第六條 定期口内ニ授業料ヲ納メサル者ハ未納中登校ヲ差止ム
- 第十二款 生徒寮規程
- 第一條 生徒寮ハ本校生徒ノ常ニ起臥シテ身体ヲ鍛鍊シ學術ヲ自修シ品性ヲ陶冶スル處トス
 - 第二條 在寮生徒ハ本校生徒心得ノ趣旨ヲ以テ修身ノ綱領

- トナスベシ
- 第三條 本校生徒ハ總テ生徒寮ニ入ルベキモノトス但本校ノ都合ニ依リ通學セシムルコトアルベシ
- 第四條 本校生徒ハ入寮ノ際第三號書式ノ在寮誓書ヲ差出スベシ
- 第五條 在寮生徒ハ猥リニ退寮ヲ許サス
- 第六條 在寮生徒ハ毎月一日ヨリ七日マデニ寮費金壹圓拾錢ヲ納ムベシ但シ學期始メノ月ハ授業開始ノ日ヨリ七日以内ニ納付スベシ又寮費ハ在寮一ヶ月ニ滿タサル者ト雖モ減額セズ
- 第七條 定期日内ニ寮費ヲ納メサルモノハ登校ヲ差止ム
- 第八條 生徒寮ノ管理ニ關シテハ別ニ細則ヲ設ク

書式

第一號書式

相當印紙

在學証書

私儀今般御校へ入學御許可相成候ニ付テハ御校在學中ハ校則ヲ誠實ニ遵守可致ハ勿論御校學籍ヲ脱候後ト雖モ在學中ニ生シタル一切ノ義務ハ違背ナク履行可致候若違背致候節ハ連署者ニ於テ一切之ヲ引受可申仍而証書如件

年 月 日

本籍族稱(戶主又ハ何某男又ハ弟)

現住所

何 某 印

生年月日

本人ノ父兄若クハ父兄ノ責ニ任ズベキモノ

本籍族稱

現住所

本人ニ對スル關係

何 某 印

生年月日

第六高等學校長何誰殿

第二號書式

卒業証

府縣族稱

何 某

何年何月生

右者本校ニ於テ大學豫科第一(二)(三)部ノ學科ヲ修メ正ニ其業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ証ス

年月日校印
 第六高等學校長位勳學位爵姓名印
 第三號書式
 番號

印紙

在寮誓書

私儀今般御校生徒寮ニ入寮致候ニ付テハ生徒寮規則其他諸規則堅ク相守リ可申此段相誓候也

本籍
 族稱
 何科何年生
 姓名
 生年月

前書何某入寮致候ニ付テハ在寮中ハ勿論退寮後ト雖モ同在寮中ニ係ル事件ハ拙者ニ於テ一切負擔可致候也

本人ノ父兄若クハ父兄ノ責ニ任スヘキ者
 本族籍
 現住所
 職業
 本人ニ對スル關係
 姓名
 生年月

第六高等學校長何誰殿

第二章 細則
 第一款 教務細則

第一節 授業規程

- 第一條 授業始ノ時刻ハ振鈴、授業終ノ時刻ハ號鐘ヲ以テ之ヲ報ス
- 第二條 生徒ハ授業始ノ振鈴ヲ聞クトキハ直ニ着席シ靜肅ニ教官ノ入場ヲ待ツベシ
- 第三條 生徒ハ授業ノ始及終ニ於テ教官ニ對シ起立敬禮スベシ
- 第四條 授業中ハ教官ノ許可ナクシテ教場外ニ出ツヘカラス
- 第五條 受持教官定刻ニ至ルモ教場ニ出場セザルトキハ教務課ニ問合セ其指揮ヲ受クルニアラザレバ決シテ隨意退散スベカラス
- 第六條 生徒教場ニアリテハ休憩時中ト雖モ靜肅ヲ旨トシ

喧噪ノ舉動アルベカラス

- 第七條 課業上必要ナル物品ノ外ハ一切教場内ニ携帯スベカラス

- 第八條 遅刻缺課又ハ缺席スルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ其當日乃至翌翌日中(休日ヲ除ク)ニ寮生ニアリテハ寮務課長及監督教官ノ承認ヲ經通學生ニアリテハ監督教官ノ承認ヲ經テ學校長ニ届出ツヘシ

但シ二日以上缺席セントスルトキハ其日限ヲモ記入スベク又疾病ニヨリ缺席七日以上ニ亘ルトキハ校醫ノ診斷書ヲ添フヘシ

- 第九條 登校シタル後缺課セントスルモノハ生徒課備付ノ帳簿ニ其理由ヲ詳記シ當該學科受持教官ノ承認ヲ受クベシ急病ニヨリ前項ノ手續ヲナス能ハサルトキハ第八條ノ手

續ニヨリ届出ベシ
第十條 第八條及第九條ノ手續ヲ爲サ、ルモノハ其回数ニヨリ減点ス

第二節 生徒心得(細則)

第一條 本校生徒ハ本校規則告示命令ニ服從シ特ニ第五款ノ各條ノ趣旨ニ基キ其本分ヲ忘ルベカラス
第二條 本校生徒ハ本校職員ニ對シテハ勿論生徒相互ニ脱帽敬禮スベシ
第三條 本校生徒ハ嚴ニ飲酒ヲ禁ス
本校生徒ハ料理店又ハ風儀ヲ紊ス虞アル場所へ出入スヘカラス
第四條 卑猥ナル稗史小説ノ類ヲ閱讀シ其他風儀ヲ紊スノ

虞アル遊戯ヲナスベカラス
第五條 教室内ハ勿論扣所廊下等ニ於テ吐唾又ハ煙草ノ吹殻ヲ棄ツル等總テ汚穢ノ所爲又ハ危險ノ虞アル行爲ヲナスヘカラス
第六條 屋内ニ於テハ指定場所ノ外喫烟スベカラス
第七條 校内ニ於テハ指定ノ場所ノ外飲食スベカラス
第八條 本校所屬ノ建物及器物ヲ毀損シ若クハ汚染シタルモノハ辨償セシメ情狀ニヨリ懲戒ニ處ス
第九條 別ニ規程ヲ設ケタルモノ、外生徒ガ差出ス願届書ハ總テ監督教官(寮生ハ監督教官及寮務課長)ノ承認ヲ經ベシ
第十條 本校生徒及其父兄若クハ之ニ代ハルモノニシテ其宿所ヲ變更シ又ハ戸籍上異動ヲ生ゼシトキハ速ニ届出ツ

ベシ

第十一條 本校ノ告示ハ所定揭示場ニ發表ノ上ハ一般ニ知了シタルモノト看做スヲ以テ生徒ハ常ニ注意スヘシ

第十二條 本校生徒ハ舉テ本校所定ノ校友會員トナルベキ義務アルモノトス

第三節 生徒集會規程 (明治四十五年三月十六日發表)

第一條 生徒ノ集會ハ總テ生徒課ノ認許ヲ經ヘシ本校生徒外ノ者ト共ニスル集會モ亦同シ

但寮生ノミノ集會ハ寮務課ノ認許ヲ經ヘシ

第二條 級會室會其他相互ノ懇親ヲ目的トスル集會ハ總テ集會所ニ於テ行フヘシ

第三條 生徒ハ本校生徒外ノ者ト共ニスル場合ニ於テモ料

理店ニ集會スルコトヲ許サス

第四條 集會ヲ催サントスルトキハ其前日迄ニ寮生ノミノ集會ハ寮務課ニ其他ノ集會ハ生徒課ニ願出テ認許証ヲ受クヘシ

第四節 學業成績考查細則

第一條 各學科ノ成績ニ對シ評點ヲ附ス之ヲ學期評點及ヒ學年評點ノ二種トシ各一百ヲ以テ最高點ト定ム

第二條 各學科ノ學期評點ハ當該學期間ノ日常ノ課業通常試業及ヒ學期試業ノ成績ニヨリテ定ム

第三條 各學科ノ學年評點ハ各學期評點ノ和ニ第三學期試業評點ヲ加ヘテ四除シタルモノトス

第四條 學期試業ニ缺席シタルモノニハ零點ヲ附ス、其缺席

ノ理由正當ナリト認メタルモノニハ第一、若クハ第二學期
 試業ニアリテハ他ノ學期評點平均數ノ十分ノ六ヲ附スル
 コトアルベク第三學期試業ニアリテハ該課目ノ第一、第二
 學期評點平均數六十以上ナル場合ニ限リ其年九月上旬ニ
 追試業ヲ行フコトアルベシ
 前項ノ追試業ニアリテハ其評點ノ十分ノ八ヲ以テ得點ト
 ナス
 學期試業ヲ缺クコト二回ニ及ヘル者ニハ學年評點ヲ附セ
 ス
 第五條 停學ノ處分ヲ受ケタル者ニハ其期間試業其他ノ方
 法ニヨリテ評點ヲ附スル事ナク解停後ト雖モ追試業ヲ行
 フ事ナシ
 第六條 學年ノ終ニ於テ各學科學年評點ノ平均數六十以上

ニシテ左ノ諸項ノ一ニ當ルモノハ進級又ハ卒業セシム
 但シ行狀不正ノモノ又ハ日常ノ授業ニ出缺不整ノモノ
 ハ學業成績ノ如何ニ關セズ原級ニ止ム
 第一項 學年評點六十未滿ノ科目ナキモノ
 第二項 學年評點六十未滿ノモノ一課目アルモ其評點五
 十以上ノモノ又ハ其評點五十以下四十以上ニシテ第三
 學期試業評點或ハ學期評點平均數六十以上ノ者
 第三項 學年評點六十未滿ノモノ二科目アルモ其評點孰
 レモ五十以上ノモノ
 第四項 學年評點六十未滿ノモノ三科目以上アルモ其數
 履修セル總科目ノ三分ノ一或ハ三分ノ一以下ニシテ該
 科目皆學年評點五十以上第三學期試業評點或ハ學期評
 點平均數六十以上ノ者

第五節 生徒寮規程(細則)

- 第一條 在寮生徒ハ生徒寮ノ本旨ニ基キ堅ク本校規則ヲ遵守シ特ニ生徒心得第二條ノ趣旨ヲ体シ其勵行ヲ期スヘシ
- 第二條 生徒寮ニハ各寮ニ一人ノ委員、各室ニ正副二人ノ委員ヲ置キ學校長之ヲ命ス
- 第三條 寮委員ハ寮務課長ノ指示ニ從ヒ全寮内整理ノ責任シ風紀ノ振肅ヲ圖ルモノトス
- 第四條 正副委員ハ室内ノ秩序清潔ヲ保持シ兼テ生徒寮ノ風儀ヲ高尚ニスルコトヲ期スヘシ
- 第五條 各寮ニ若干名ノ委員ヲ選定セシメ寮務課ノ指揮ニ從ヒ炊事ノ監督ヲナサシム
- 第六條 在寮生徒ハ毎朝室内ヲ掃除シ机上所持品寢具ヲ整頓シ毎土曜日大掃除ヲ行フベシ

第七條 晨起、就寢、喫飯、沐浴、門限等ノ時刻ハ決シテ違フベカラズ
時刻ハ隨時之ヲ定ム

第八條 外出ノ時刻ハ午前六時ヨリ午後九時迄トス
但シ翌日休業日ナルトキハ午後十時迄トス

第九條 人員検査ハ毎日門限後十分ニ行ヒ其他臨時ニ之ヲ行フ

第十條 在寮生徒ハ居常成ルヘク制服制帽ヲ着用スヘシ若シ和服ヲ纏フトキハ必ズ袴ヲ着ケ外出スルトキハ必ス制帽ヲ着用スヘシ

第十一條 寮内ニ於テ放歌、口論、雜談、遊戲等研修安眠ヲ妨害スル行爲アルベカラス

第十二條 卑猥ナル稗史小説ヲ閱讀シ又ハ風儀ヲ紊ス虞アリ

- ル遊戯ヲ爲スヘカラス
- 第十三條 室内ニ於テ一切音讀ヲ禁ス
- 第十四條 在寮生徒ハ嚴ニ飲酒ヲ禁ス
- 第十五條 寮内ニ於テハ指定ノ場所ヲ除クノ外飲食スルコトヲ禁ス
- 第十六條 在寮生徒ハ所定ノ場所ニ非レハ集會スルヲ許サス
- 第十七條 消燈後在寮生徒ノ點燈スルヲ許サス
- 第十八條 室内備付品ノ外猥リニランブ、蠟燭、机等ヲ備フル者アルトキハ直チニ之ヲ取去ラシム場合ニ依リ之ヲ寮務課ニ留メ置クコトアルベシ
- 第十九條 消燈後特ニ研修ヲ要スル者ハ特別自習室ニ於テスベシ
- 第二十條 特別自習室ニ於テ研修スル者ハ決シテ一般生徒

- ノ安眠ヲ妨グルノ行爲アル可ラス
- 第二十一條 來訪者ニ對シテハ總テ應接室ニ於テ面會スヘシ
- 第二十二條 木履又ハ靴ニテ寮ニ上ルヲ許サス一度使用シタル木履又靴ハ室内ニ持入ル可ラズ
- 上草履ノ使用ハ寮内、食堂、病室、浴室ニ限ルモノトス
- 第二十三條 傳染病若シクハ容易ニ平癒ノ見込ナキ疾病ニ罹リタル者ハ退寮セシム
- 第二十四條 門限迄ニ歸寮シ得ザルコトヲ豫知シテ外出スル者ハ其事由ヲ詳記シ寮務課ノ允許ヲ得テ外出スベシ
- 第二十五條 門限後俄カニ不得已事故生シ特ニ外出セント欲スル者ハ其事由ヲ詳記シ寮務課ノ認許ヲ受クベシ
- 第二十六條 外出後已ムヲ得ザル事故生シ門限ニ遅レテ歸

寮セシ者ハ直チニ遅刻ノ事由ヲ詳記シ寮務課ニ届出ツベシ

第二十七條 已ムヲ得サル事故アリテ外泊セントスル者又ハ歸省セントスル者ハ豫メ其事由ヲ詳記シ寮務課長ヲ經テ學校長ニ願出ツヘシ

第二十八條 外出中俄ニ外泊スルノ已ムヲ得ザル事故生シ前條ノ手續ヲ爲スニ違ナキトキハ當日人員検査時刻迄ニ其事由ト居所トヲ寮務課ニ届出デ歸寮ノ際更メテ其理由ヲ詳記シ寮務課長ヲ經テ學校長ニ届出ツヘシ

第二十九條 正當ノ理由ナクシテ門限ニ遅刻シ又外泊シタル者ハ其情狀ニ依リテ懲戒ニ處ス

第三十條 炊事委員ノ外在寮生徒ハ炊事ニ關シ賄方ニ直接交渉スベカラズ

第三十一條 食料ハ必ス毎月十六日ヨリ末日マテニ支拂フヘシ猥リニ支拂ヲ怠ル者ハ其情狀ニ依リ適宜處分ス但十二月三月六月ニ至リテハ各其月二十日マデニ支拂フベシ

第三十二條 在寮生徒ハ定時刻ノ外猥リニ賄方ヲシテ調膳セシムルヲ許サス

但シ土曜日休業日ノ晝飯及夕飯ニ限り定刻後一時間以内ニ於テハ調膳ヲ求ムルコトヲ得

第三十三條 病氣ノ爲メ特別ノ食物ヲ要スルモノアルトキハ校醫ノ診斷書ヲ添ヘ其旨寮務課ニ願出ツベシ

第三十四條 豫メ賄方ニ通知シテ一日以上缺食スルニ非ラザレバ食費ヲ減セシムルコトヲ得ズ

第三十五條 通學生ニシテ生徒寮食堂ニ於テ食事スルモノニ對シテハ凡テ生徒寮食事ニ關スル規定ヲ適用ス

第三十六條 寮務課ノ許可ヲ得スシテ猥リニ給仕、守衛、校丁ヲ使役スベカラス

第六節 通學生徒規程

第一條 通學生徒ハ宿所選定ノ日ヨリ三日以内ニ左記書式ノ宿所届ヲ監督教官ノ承認ヲ經テ本校ニ差出スベシ轉宿ノ時亦同ジ

第二條 通學生徒ハ其宿所ノ位置宿主ノ職業家庭ノ状態又ハ其他ノ事情ニシテ不適當ナルトキハ他ニ轉宿ヲ命ゼラル、コトアルヘシ

第三條 通學生徒ニシテ生徒寮食堂ニ於テ食事ヲナサント欲スル者ハ監督教官及生徒課ヲ經テ寮務課ニ願出テ許可ヲ受クベシ此場合ニ於テハ生徒寮規則ヲ適用ス

第四條 通學生徒ニシテ生徒寮ニ於テ生徒ニ面會スルニハ必ス生徒寮應接室ニ於テスヘシ
宿所届書式

宿所 御 届

(監督教官檢印)

- 一 宿所
- 一 家主ノ姓名職業
- 一 家族ノ數及其状態
- 一 同居者ノ姓名職業
- 一 親族的關係ノ有無
- 一 一ヶ月ノ報酬額
- 一 私儀何月何日ヨリ前記ノ所ニ下宿致候間家主連署ヲ以テ此段御届申上候也

年 月 日

何部何年何組

姓名印

家主

姓名印

第六高等學校長何誰殿

第七節 担任教官級長及副級長規程

第一條 各組ニ担任教官一名級長及副級長各一名ヲ置ク

第二條 担任教官ハ教授助教及講師中ヨリ學校長之ヲ任命ス

第三條 担任教官ハ其管掌スル常該組ノ風紀ヲ正シ學事ヲ監督シ及校規命令ノ實行ヲ期スベシ

第四條 担任教官ノ管掌スヘキ事務ハ概テ左ノ諸項トス

一 生徒ノ學業獎勵及風儀取締ニ關スル事項

一 命令ノ傳達諭告等ニ關スル事項

一 生徒ノ屆願書類ニ關スル事項

一 生徒ノ勤怠及學業成績ノ審査ニ關スル事項

一 教室備付品ノ整理保存ニ關スル事項

一 教室內ノ衛生ニ關スル事項

一 其外當該組ニ關スル一切ノ事項

第五條 担任教官ハ學期末及學年末ニ於テ教務課ヨリ回附

スル學業成績調査簿ヲ審査シ學校長ニ進達スベシ

第六條 級長副級長ハ生徒ヲシテ各三名ヲ互選セシメ其中

ニ就キ學校長之ヲ命ス

第七條 級長副級長ハ担任教官ノ指揮ヲ受ケ當該組ノ風紀

ニ注意シ命令ヲ傳達シ教室ノ秩序整頓ヲ保持スヘシ

第八條 担任教官級長副級長ノ任期ハ各一ケ年トス

第八節 監督教官規程

- 第一條 本校生徒ヲ數部ニ區分シ各部ニ監督教官一人ヲ置キ部下生徒ノ保護監督ノ任ニ當ラシム
- 第二條 監督教官ハ教授助教講師中ヨリ學校長之ヲ命ス
- 第三條 監督教官ハ部下生徒ノ品性學業健康等ニ關シテ特ニ注意ヲ加ヘ機宜ニ應シテ訓戒補導ヲ爲シ本校々規第五款ニ基キ生徒ノ本分ヲ全クセシムルコトヲ期スベシ
- 第四條 監督教官ハ師弟間ノ情誼ヲ厚クシ前條ノ目的ヲ達センカ爲メ適宜ニ部下生徒ノ集會ヲ開クベシ
- 第五條 監督教官ハ部下生徒ヨリ本校ヘ差出スベキ缺課轉宿、休學其他總テノ願届書ヲ審査シ正當ト認ムルトキハ之ニ捺印スヘシ

第九節 評議員規程

- 第一條 本校ニ評議員若干名ヲ置ク
- 第二條 評議員ハ本校教授中ニ就キ學校長之ヲ命ス
- 第三條 評議員ハ學校長ノ諮詢ニ應シ意見ヲ述ブ

第十節 教授會規程

- 第一條 教授會ハ本校教授ヲ以テ之ヲ組織シ學校長之ヲ召集ス
但シ場合ニヨリ教授以外ノ職員及講師ヲシテ列席セシムルコトアルベシ
- 第二條 教授會ハ學校長ノ諮詢ニ應シ左ノ事項ニ付キ審議ス
一 學科課程ニ關スル事項

- 一 授業ニ關スル事項
- 一 生徒ノ懲戒ニ關スル事項
- 一 生徒ノ監督ニ關スル事項
- 一 生徒寮ニ關スル事項

一 前項ノ外學校長ニ於テ必要ト認メタル事項

第三條 教授會ハ必要ニ應シ隨時之ヲ開クモノトス

第十一節 服裝規程

第一條 本校生徒ノ服裝ハ左ノ如ク之ヲ制定ス

- 制式 海軍形
- 品質 羅紗
- 色 黒

畧 帽

制式 縁三寸五分高二寸五分鉢巻黒布巾一寸五分

徽章正帽ニ全シ

品質 麥藁

帽 章

制式 前額部ニ本校所定ノ徽章ヲ附ス

外ニ額部ノ周圍ニ白線二條ヲ附ス

但シ上線ハ幅一分下線ハ幅三分トス

品質 眞鍮

冬 服

制式 立襟

品質 小倉若クハヘル

色 紺

鈕釦 色黄、品質真鍮、本校ノ徽章ヲ附セルモノ

夏服

制式 冬服ニ同シ

品質 小倉

色 鼠

鈕釦 冬服ニ全シ

外套

制式 圖ノ如シ

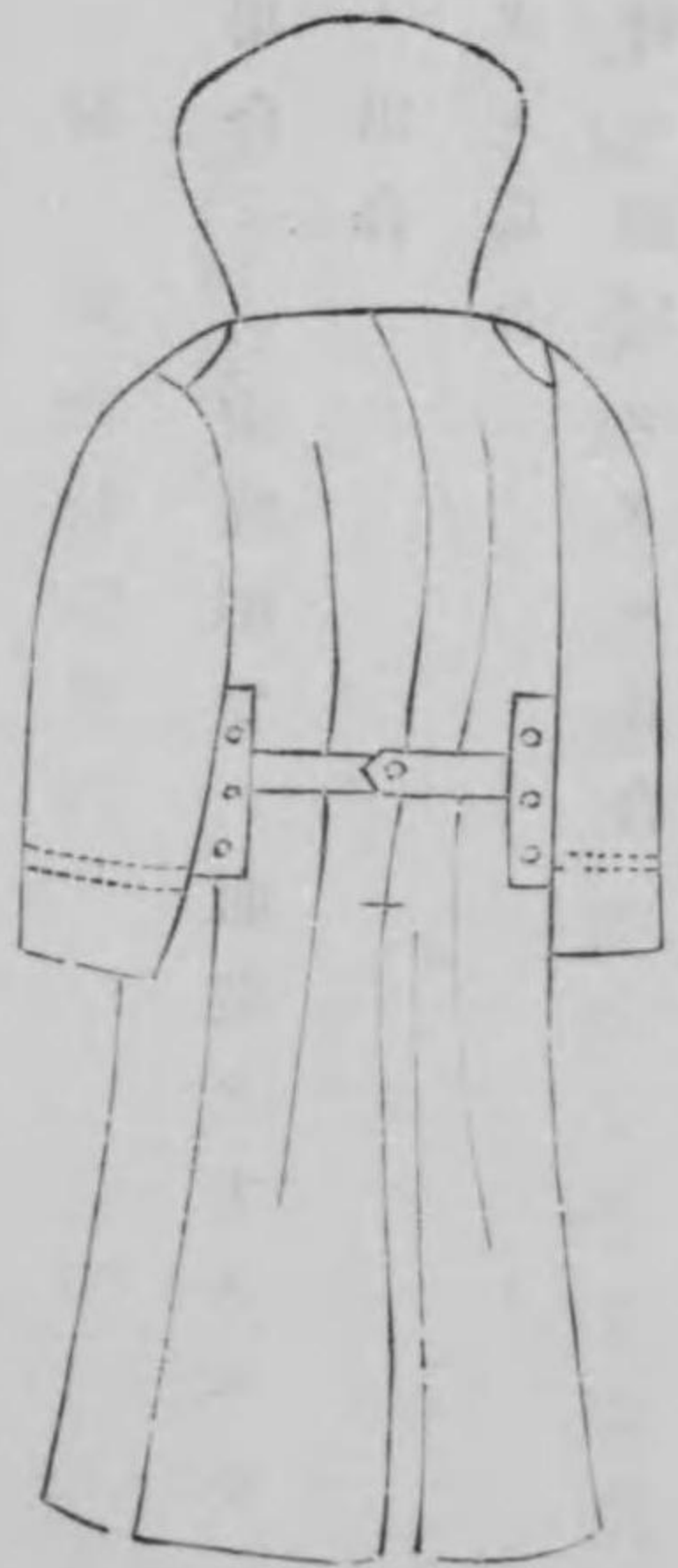
品質 黒又ハ紺ノ羅紗

鈕釦 上着ト同シ

前外
面套



背外
面套



靴

制式 黒革

第二條 左ノ場合ニハ前條制定ノ服裝ヲナスベシ

一 儀式舉行ノ場合

一 授業ヲ受クル場合

一 本校ヨリ特ニ指定シタル場合

第三條 生徒ハ居常成ルベク制服ヲ着用スベシ若シ和服ヲ着用スルトキハ必ス着袴シ外出ノトキハ更ニ制帽ヲ着スベシ

第十二節 生徒取締規程

第一條 生徒一般ノ風紀ヲ振肅スル爲メ生徒取締ヲ置ク

第二條 生徒取締ハ生徒監ノ指揮ヲ受ケ左ノ事項ヲ管掌ス

一 校ノ内外ニ於ケル生徒ノ取締ニ關スル事項

二 校舎内外ノ整頓ニ關スル事項

三 生徒集會ニ關スル事項

四 生徒服裝ニ關スル事項

五 其他風紀ニ關シ臨時必要ト認ムル事項

第三條 生徒取締ハ職務執行ニ關シテ巡視門衛ヲ指揮スルコトヲ得

第四條 生徒取締ハ定時生徒監ヲ經由シ管掌事項ニ付キ學校長ニ申報スヘシ

第二款 掌務細則

第一節 校務分掌規程

第一條 校務ヲ分掌セシムル爲メ左ノ各課ヲ置ク

教務課
 生徒課
 寮務課
 庶務課
 會計課
 文庫課

第二條 各課ニ課長ヲ置ク
 第三條 各課ノ課長ハ學校長教授中ニ就キ之ヲ命ス但シ寮務課長ハ生徒監中ニ就キ之ヲ命シ會計課長ハ會計主任ヲ以テ之ニ充ツ
 第四條 各課ノ課長ハ學校長ノ指揮ヲ受ケ當該課ニ關スル事務ヲ掌理スヘシ
 第五條 各課ニ係員ヲ置ク上官ノ指揮ヲ受ケ各其課ノ事務

ヲ處理ス

第六條 教務課ニ於テ左ノ事務ヲ掌ル
 一 學課配當ニ關スル事項
 二 教科書ニ關スル事項
 三 授業上設備ニ關スル事項
 四 教室ニ關スル事項(但特別教室ヲ除ク)
 五 生徒ノ訓育及懲戒ニ關スル事項
 六 教官會議及評議員會ニ關スル事項
 七 教務上ノ命令傳達並ニ通知ニ關スル事項
 八 生徒ノ入學、在學、退學、休學ニ關スル事項
 九 生徒ノ學籍ニ關スル事項
 十 卒業生ニ關スル事項
 十一 學級編成ニ關スル事項

- 十二 試業及成績ニ關スル事項
 - 十三 學力檢定ニ關スル事項
 - 十四 特待生ニ關スル事項
 - 十五 生徒證明書等ニ關スル事項
 - 十六 生徒修學旅行等ニ關スル事項
 - 十七 參觀人取扱ニ關スル事項
 - 十八 引見式、宣誓式ニ關スル事項
 - 十九 前項ノ外教務ニ關スル一切ノ事項
- 第七條
- 一 生徒課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 生徒ノ風紀取締及衛生ニ關スル事項
 - 二 生徒ノ体格檢査ニ關スル事項
 - 三 生徒ノ訓誨及懲戒ニ關スル事項
 - 四 生徒ノ勤惰ニ關スル事項

- 五 生徒扣所ノ整理ニ關スル事項
 - 六 生徒ノ願、伺、届等ニ關スル事項
 - 七 生徒ノ集會、運動會及文書類ニ關スル事項
 - 八 監督會ニ關スル事項
 - 九 團體旅行ノ取締ニ關スル事項
 - 十 級長及副級長ニ關スル事項
- 第八條
- 一 寮務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 在寮生徒ノ風紀及衛生ニ關スル事項
 - 二 在寮生徒ノ訓育及取締ニ關スル事項
 - 三 在寮生徒ノ懲戒ニ關スル事項
 - 四 在寮生徒ノ集會及文書類ニ關スル事項
 - 五 生徒寮賄所病室浴室其他生徒寮附屬建物ノ整理ニ關スル事項

- 六 生徒寮ニ屬スル守衛及賄方取締ニ關スル事項
- 七 前項ノ外生徒寮ニ關スル事項
- 第九條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 御聖影及勅語ノ保管ニ關スル事項
 - 二 校長ノ官印及校印ノ保管ニ關スル事項
 - 三 雇員以上ノ職員ノ進退身分ニ關スル事項
 - 四 備外國人ニ關スル事項
 - 五 各課成按文書回議ノ審査ニ關スル事項
 - 六 公文書類ノ起案記録ノ編纂及保管ニ關スル事項
 - 七 公文書類ノ授受發送ニ關スル事項
 - 八 諸規則ノ創定變更等ニ關スル事項
 - 九 一覽統計報告等ニ關スル事項
 - 十 儀式ニ關スル事項

- 十一 當直ニ關スル事項
- 十二 寄附願ニ關スル事項
- 十三 生徒ノ兵役ニ關スル事項
- 十四 各課ノ主掌ニ屬セザル校務上ノ事項
- 第十條 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 資金ノ監理ニ關スル事項
 - 二 資金ノ豫算及決算ニ關スル事項
 - 三 歳入歳出豫算及決算ニ關スル事項
 - 四 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
 - 五 經費ノ仕拂及証明ニ關スル事項
 - 六 物品ノ保管及購買ニ關スル事項
 - 七 物品ノ貸借及修理ニ關スル事項
 - 八 物品ノ出納及証明ニ關スル事項

- 九 營繕ニ關スル事項
- 十 警備並ニ災害ノ防止及消毒ニ關スル事項
- 十一 本校内外ノ掃除ニ關スル事項
- 十二 不用物品ノ處分ニ關スル事項
- 十三 電話、電燈及給水ニ關スル事項
- 十四 巡視、給仕、校丁以下ノ進退及取締ニ關スル事項
- 十五 門鑑ニ關スル事項
- 十六 人夫ノ傭入及其取締ニ關スル事項
- 十七 物品ノ運搬並ニ收受但小包郵便ヲ除クニ關スル事項
- 十八 前項ノ外會計ニ關スル事項
- 第十一條 文庫課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 圖書ノ監守、保管及出納ニ關スル事項
- 二 圖書印ノ保管ニ關スル事項

- 三 圖書ノ貸付ニ關スル事項
- 四 圖書閱覽室及其取締ニ關スル事項
- 五 圖書ノ目錄編纂及整理ニ關スル事項
- 六 新聞雜誌年報一覽等ノ保管及出納ニ關スル事項
- 七 前項ノ外圖書ニ關スル事項

第二節 事務員服務規程

第一 事務員

- 第一條 事務員ハ執務時限前ニ昇校シ直ニ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第二條 當日ニ生シタル事務ハ可成即日處辨スヘシ若シ即日處辨スヘキ事務ニシテ執務時間中ニ處辨シ終ラサルモノアルトキハ退校時限ニ至ルト雖モ事務處辨ノ後ニアラ

サレハ退校スルコトヲ得ス
 第三條 監督上官ヨリ特ニ命令アルトキハ執務時間外又ハ休日ト雖モ執務スヘシ
 第四條 疾病其他ノ事故ニヨリ遅刻セントスルトキ又ハ出勤シ難キ時ハ其事由ヲ具シ執務時限前ニ學校長ニ届出ツヘシ但シ疾病ノ爲メ缺勤一週間ニ及フトキハ届書ニ醫師診斷書ヲ添フルヲ要ス爾後一週間毎ニ同様ノ手續ヲ爲スヘシ
 第五條 執務時間中發病其他ノ事故ニ依リ執務ノ場所ヲ離レントスルトキハ其事由ヲ申告シテ學校長ノ許可ヲ受クヘシ
 第六條 父母ノ忌日ニ丁リ祭典ヲ舉行スル爲メニ不參セムトスルモノハ其旨前日中ニ届出ツヘシ

第七條 親屬ノ喪ニ遇ヒ忌服ヲ受クルトキハ死者ノ氏名並ニ死者トノ親屬關係ヲ表示シタル忌引届ヲ差出スヘシ
 第八條 新任ノ者ハ七日以内ニ履歷書印鑑及宿所届ヲ差出スヘシ爾後改印轉居等ハ其都度届出ツヘシ
 第九條 出張ノ命ヲ受ケタルモノハ出發ノ際及歸校ノ際共其旨學校長ニ届出ヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ歸校後五日以内ニ復命書ヲ學校長ニ提出スヘシ若シ學術研究ノ爲メ出張ヲ命セラレタル場合ニ在リテハ研究ノ結果ヲ報告スヘシ
 第十條 出張旅費請求書ハ歸校後三日以内ニ差出スヘシ又出張先ニ於テ臨時必要ヲ生シタル費用即荷造用ノ物品代若シクハ郵便電信料等私費繰替拂ヲ爲シタルモノアルトキハ歸校後三日以内ニ仕譯書ヲ添へ會計課ニ請求スヘシ

但シ私費繰替ノ償還請求ニハ確實ナル証憑ヲ添付スルヲ要ス

第十一條 轉免ノ節ハ事務及物品等ノ引繼ヲ爲スヘシ引繼ハ書面ヲ受渡者双方連署ヲ以テ届出ツヘシ

第十二條 火器其他危險物ニ付テハ擔當事務ニ屬スルト否トヲ問ハス事務員互ニ注意シ十分取締ヲ爲スヘシ

第十三條 風水震災其他非常異變アルカ又ハ校内若シクハ其近傍ニ於テ出火アルトキハ速ニ昇校シテ上官ノ指揮ニ從フヘシ

附 則

第十四條 本則ハ教官及囑託者ニ準用ス

第二 當 直

第十五條 本校當直勤務ハ本校書記及事務雇員輪番ヲ以テ一名宛之ニ任ス其順番ハ別ニ之ヲ定ム

當直勤務ハ場合ニヨリ前項職員以外ノモノニモ命スルコトアルベシ

第十六條 當直時間ハ左ノ如ク定ム

- 一 平日ハ退校時限ヨリ翌日昇校時限迄トス
 - 二 休日ハ其日ノ昇校時限ヨリ翌日ノ昇校時限迄トス
- 但シ昇校時限ハ當時ノ執務時間ノ規定ニ從フ

第十七條 左ノ諸項ノ一ニ當ルトキハ當直ヲ免ス

- 一 出張ヲ命セラレタル者ハ出張中ハ勿論出張ノ前日及歸校ノ翌日
- 二 病氣其他ノ事故ニヨリ本務ヲ缺クモノハ缺勤届出

ノ當日

第十八條 前條ノ事由ニヨリ除直スルモノアルトキハ當直順ハ順次繰上トス

第十九條 當直者已ムヲ得サル事故ニヨリ他ノ當直ノ義務アル職員ヲシテ代番セシメントスルトキハ其旨連署ヲ以テ届出ツヘシ

第二十條 當直ノ義務アル職員新任ノ時ハ出校ノ日ヨリ起算シ一週日ノ後當直順番ニ挿入ス此場合ニ於テハ他ノ當直者ノ順番ハ當然順次繰下クルモノトス又轉免者アルトキハ順番ノ繰上ヲナスヘシ

第二十一條 當直勤務ノ主要ナル事項ハ概テ左ノ如シ
一 聖影奉安室及其他ノ銷輪並ニ當直日誌ノ保管ヲナスコト

二 巡視校丁等ヲ監督シ校舍内外一切ノ取締ヲ爲スコト

三 往復物件ヲ處分スルコト

四 火器其他火災ノ虞アル器物ニ對シ注意スルコト
第二十二條 當直日誌ニハ左ノ諸件ヲ記載スルヲ要ス

一 當直ノ年月日並ニ宿直者ノ氏名捺印

二 巡視校丁火夫ノ氏名

三 到着若クハ發送セシ物件ノ目錄

四 以上諸項ノ外當直中處理シタル事項

第二十三條 當直日誌ハ翌日庶務課長ノ監査ヲ經ヘシ
第二十四條 宿直中接受シタル物件ハ左ノ取扱ヲナスヘシ

一 親展公文書並ニ職員宛私文書及其他ノ物件ハ其儘之ヲ留置キ翌日受附係ニ交付シ表記氏名ヲ示サ

ルモノハ各課長ニ引渡スヘシ但外見急速ヲ要スルモノト認め得ヘキモノハ直ニ宛名ノモノ若クハ各課長ニ送達スヘシ

一 親展ニアラサル公文書ハ直ニ開封シ即時之ヲ處理スヘシ

第二十五條 當直中出火近火ハ勿論風水震災盜難等非常ノ異變アルトキハ直ニ學校長ニ其旨ヲ急報シ狀況ニ應シ直ニ臨機ノ處置ヲナスヘシ

第三節 生徒寮掌務規程

第一 寮務課長

第一條 寮務課長ハ生徒ヲ集メテ訓戒ヲ加ヘ生徒寮ニ出頭シテ平生ヲ視察スル等常ニ生徒ノ訓育ニ注意シ生徒寮規

則第一條及第二條ノ趣旨ニ基キ其實効ヲ舉クル事ヲ期スヘシ

第二條

寮務課長ノ處理スヘキ主要ナル事項ハ左ノ如シ

- 一 寮務掛ノ監督
- 二 生徒ノ訓戒、取締、懲戒ニ關スル件
- 三 寮務日誌其他重要ナル書類ノ監査
- 四 生徒ノ集會ニ關スル件
- 五 生徒ノ體格檢査及體育情況ノ視察
- 六 生徒寮備品消耗品ノ保管
- 七 賄方ニ關スル件
- 八 校醫ノ監督
- 九 寮内火災ノ警備
- 十 寮内一般衛生

第二 寮務掛

第三條 寮務掛ハ上官ノ指揮ヲ受ケ寮務ニ關スル日常ノ事務ヲ取ルヘシ

第四條 寮務掛ノ處理スヘキ主要ナル事項ハ概テ左ノ如シ

- 一 生徒寮ニ屬スル巡視、守衛寮丁ノ監督
 - 二 火災警備衛生ニ關スル注意
 - 三 定時人員點檢並ニ在寮生ノ出入ニ關スル監視
 - 四 生徒食品ノ監査
 - 五 在寮疾病者ノ手當
 - 六 生徒寮備品、消耗品ノ整理
 - 七 寮務課ニ屬スル課長印及寮印其他所屬書類ノ保管
- 第五條 實例ナキ事項ハ總テ寮務課長ノ指揮ヲ受ケテ後處理スヘシ若シ至急處分ヲ要スル事項ニシテ指揮ヲ受クル

ノ暇ナキ時ハ假ニ處分シ其由ヲ寮務課長ニ申告スヘシ

第六條 經伺ヲ要スル事件ハ寮務課長校長ニ進達スヘシ

第四節 文庫規程

第一條 文庫ハ本校ノ圖書ヲ貯藏スル所トス

第二條 文庫ニ圖書閱覽室ヲ設ク

第三條 文庫課員ノ外圖書類ノ出納ヲナスコトヲ得ス

第四條 本校職員ニ限リ職務上必要ナル圖書ヲ借受ケ之ヲ

文庫外ニ持出スコトヲ得

第五條 總テ教室ニ備付ヲ要スル圖書類ハ其學科主任教官之ヲ借受ケ之カ保管ニ任ス

第六條 本校職員圖書類ヲ借受ケント欲スルトキハ所定ノ借用証書ヲ差出スヘシ

- 第七條 借受ケタル圖書ノ使用ヲ終リタルトキハ直チニ返納スヘキハ勿論毎年豫定ノ期日迄ニ悉ク返納スヘシ
但時宜ニ依リ臨時返納セシムルコトアルヘシ
- 第八條 總テ貸附セル圖書類ハ每學年末指定ノ期日ニ於テ文庫課員立合ノ上調査スヘシ
- 第九條 凡ソ借受ケタル圖書類ヲ汚漬毀損若クハ紛失シタルトキハ其事情ニ依リ相當ノ修繕ヲ加ヘシメ又ハ同一ノ代品ヲ以テ之ヲ償ハシムルコトアルヘシ
- 第十條 前條ノ場合ニ於テハ借受者ハ速ニ其理由ヲ詳記シタル届書ヲ文庫課長宛差出スヘシ
- 第十一條 圖書類ハ一切生徒ニ貸付セス
但シ圖書閱覽室備附ノ圖書ハ此限ニ非ラス
- 第十二條 本校職員ニ非ラサルモ學術篤志ノ者ニシテ圖書

閱覽ヲ出願スルトキハ學校長特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

附圖書閱覽室規程

- 第一條 本校文庫内ニ圖書閱覽室ヲ設ク
- 第二條 圖書閱覽室ハ本校職員生徒ノ備付圖書ヲ閱覽スル所トス
- 第三條 閱覽室ハ休日(但シ日曜ヲ除ク)ノ外毎日之ヲ開ク
- 第四條 閱覽室ハ毎日午前八時ニ開キ午後九時ニ閉ツ
但シ日曜日ハ午後五時ヨリ之ヲ開ク
- 第五條 生徒ハ學年ノ始メニ於テ文庫課ヨリ閱覽券ヲ受取ルベシ
- 第六條 圖書ヲ借受ケント欲スルモノハ指定ノ證書用紙ニ

著者名書名部門番號冊數姓名年月日等ヲ詳記シ閱覽券ト共ニ之ヲ課員ニ渡スヘシ

第七條 閱覽者ハ一時ニ洋書五冊和書十冊以上ヲ借受クルコトヲ得ズ

第八條 閱覽室、備付ノ圖書ハ凡ヘテ之ヲ室外ニ持出スコトヲ得ズ

第九條 借受ケタル圖書ハ他ニ轉貸スルヲ許サス

第十條 借受ケタル圖書ノ閱覽ヲ了リタリトキハ直ニ之ヲ返納シ閱覽券ヲ受取ルヘシ

第十一條 閱覽室內ニテハ一切音讀談話等其他喧噪ノ舉動ヲナスヘカラス

第十二條 借受ケタル圖書ハ鄭重ニ之ヲ取扱フヘシ若シ汚瀆破損若クハ紛失シタルトキハ之ヲ辨償セシム

第十三條 前條ノ規程ニ違反スル者ハ退室ヲ命ス

第五節 第六高等學校物品會計規程細則

第一條 當校所要ノ物品ハ會計課ヨリ之ヲ支給ス

第二條 通常所要ノ備品消耗品ハ豫定數ニ基キ物品會計官吏ニ於テ一回又ハ數回ニ交付ノ手續ヲナスヘシ

但學術用圖書器械標本實驗用品其他臨時所要ノ物品ハ所要ノ都度請求スヘシ

第二條ノ二 各部ニ於テハ毎月下旬ニ翌月中所要ノ通常消耗品ノ品目數量ヲ取調べ物品會計官吏ニ報告スヘシ

但シ本文ノ數量ハ支給豫定數ニ超過スルコトヲ得ズ
(明治三十七年五月追加)

第三條 各部ニ於テ臨時所要ノ物品アルトキハ規定ノ請求

用紙ニ品名數量所要ノ事由等ヲ詳記シ當該首席者ヲ經由シテ會計課ニ差出スヘシ
 但シ注文上圖按ヲ要スルモノハ之ヲ添付スヘシ
 第四條 會計課ニ於テ前條物品ノ請求ヲ受ケタルトキハ必要ニシテ適當ナルヤ否ヲ調査シ正當ト認メタルトキハ會計主住及物品會計官吏ヲ經テ校長ニ提出シ受入及支給ノ命令ヲ受ケ購入ノ手續ヲナスヘシ
 第五條 物品監守者ハ會計課ヨリ物品ヲ受領シタルトキハ帳簿又ハ證書ニ捺印シテ受領ヲ證スヘシ
 第六條 各部ニ於テ不用ニ屬シタル物品アルトキハ監守者ニ於テ規定ノ返付用紙ニ品目數量受領年月日等ヲ記入シ現品ト共ニ直ニ會計課ニ返付スヘシ
 第七條 各部ヨリ不用ニ屬シタル物品ノ返付ヲ受ケタルト

キハ物品會計官吏之ヲ調査シ爾後使用ニ堪ユヘキモノハ之ヲ保管シ其目的ナシト認メタルモノハ處分按ヲ具シ物品檢閱委員ノ審査ヲ經テ校長ノ裁決ヲ乞フヘシ
 第八條 物品監守者更替シタルトキハ新監守者備品其他ノ監守簿ニ其受繼年月日ヲ記入シ且ツ記名捺印スヘシ
 第九條 職員分課ヲ轉シタルトキ從前受領ノ物品ヲ費用セントスルモノハ甲課ニ於テハ返付ノ手續ヲナシ乙課ニ於テハ更ニ受領ノ手續ヲナスヘシ
 第十條 職員轉免等ニテ不要ニ屬シタル物品ハ當該監守者ニ於テ取纏メ會計課ニ返付スヘシ
 第十一條 本規程第九條ニ依リ物品會計官吏ハ左ノ帳簿ヲ設クヘシ
 一 備品出納簿

- 一 圖書出納簿
 - 一 機械出納簿
 - 一 標本出納簿
- 以上ノ四帳簿ハ備品、圖書、機械及標本ノ出納即チ品目數量價格納人名及渡シ先等ヲ登記シ其現在高ヲ明瞭ニスルモノトス
- 但シ圖書出納簿ハ部門毎ニ機械出納簿標本出納簿ハ各學科ニ區分シ口座ヲ設ケヘシ
- 當分標本出納簿ハ器械出納簿中ニ別口座ヲ設ケ登記スルコトヲ得
- 一 消耗品出納簿
- 本簿ハ消耗品ノ出納即チ品目數量價格納人名及渡シ先等ヲ登記シ其現在高ヲ明瞭ニスルモノトス

- 一 備品支給簿
- 本簿ハ命令文書ニ基キ備品ヲ支給シタルトキ其品目數量番號受授年月日等ヲ登記シ其現在高ヲ明瞭ニスルモノトス
- 一 通常消耗品支給簿
- 本簿ハ支給定數ニ基キ支給スル物品ノ品目數量等ヲ記入シ監守者ヲシテ受領ノ印ヲ捺セシムルモノトス
- 第十二條 文庫課ニ於テハ圖書監守ノ爲左ノ帳簿ヲ設ケヘシ
- 一 圖書監守簿
- 本簿ハ部門毎ニ口座ヲ設ケ圖書名冊數受授年月日等ヲ登記シ其現在高ヲ明瞭ニスルモノトス
- 但圖書原簿ヲ以テ本條ノ監守簿ニ代用スルコトヲ得

第十三條 物理學教室、化學教室、生物學教室、地質及礦物學教

室、圖書及測量教室、体操科ニ於テハ器械及標本監守ノ爲メ

左ノ帳簿ヲ設クヘシ

一 機械監守簿

一 標本監守簿

本簿ハ各學科所屬ノ器械及標本ノ品目個數受授年月日

等ヲ登記シ其現在高ヲ明瞭ニスルモノトス

但シ當分備品監守簿中ニ別口座ヲ設ケ登記スルコト

ヲ得

第十四條 各部ニ於テハ物品ノ監守及遣拂高ヲ明確ニスル

爲メ左ノ帳簿ヲ設クヘシ

一 備品監守簿

本簿ニハ備品ノ品目箇數記番號及受授ノ年月日等ヲ登

記シ其現在高ヲ明瞭ニスルモノトス

一 通常消耗品受拂簿

本簿ニハ支給定數ニ依リ受領シタル通常消耗品ヲ每品

口座ヲ設ケ其受拂ヲ明記スルモノトス(明治三十七年五

月通常消耗品殘額報告簿ノ項ヲ刪ル)

(第十五條ハ明治三十七年五月刪除)

第十六條 使用中ノ物品ハ物品會計官吏左ノ事項ニ依リ之

ヲ監督スヘシ

一 毎年一回備品支給簿及消耗品支給簿ニ依リ各掛ニ付キ

現品ヲ査閲シ及各掛ノ備品監守簿消耗品受拂簿ノ調査

ヲナシ意見アルトキハ校長ニ申報スルコト

一 前項ノ場合ニ於テ物品ノ亡失毀損ヲ發見シタルトキ又

ハ物品ノ使用上ニ付意見アルトキハ校長ニ申報シ其處

分ヲ求ムルコト

第十七條 物品ヲ毀損シ或ハ紛失シタルモノアルトキハ物品監守者ニ於テ其事實ヲ詳記シ當該首席者之レヲ證明シテ物品會計官吏ニ報告スヘシ

但シ物品會計官吏ニ於テ保管セル物品ヲ毀損シ或ハ紛失シタルトキハ本文ニ準シ直ニ會計主任ニ報告スヘシ

第十八條 物品會計官吏前條(但シ書ヲ除ク)ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ會計主任ニ回付シ會計主任ハ物品檢閲委員ト共ニ其事實ヲ審査シ處分按ヲ具シテ校長ノ裁定ヲ乞フヘシ

第十九條 本規程第十四條第一項ニ依リ校長ハ物品檢閲委員ヲ設ケ毎年其時日ヲ定メテ或ハ臨時ニ當校所有物品ノ保管及使用并消費上ノ可否ヲ檢査セシム

第二十條 物品檢閲委員ハ委員長一名委員若干名トシ毎年

六月之ヲ任命シ其任期ハ翌年五月ニ終ル

第二十一條 物品檢閲ノ期日及檢閲委員ノ氏名ハ豫メ各部へ通牒スルモノトス

第二十二條 物品檢閲委員ノ檢査スヘキ要項ハ左ノ如シ

- 一 物品保管ノ適否
- 一 物品使用ノ適否
- 一 物品缺損ノ有無
- 一 備品及消耗品支給定數ノ過不足
- 一 其他ノ事項

第二十三條 物品檢閲ノ際ハ在庫ノ物品ニ付テハ物品會計官吏若クハ代理者使用中ノ物品ニ付テハ物品監守者又ハ物品取扱主任者其席ニ列シ檢閲委員ノ質問ニ答フヘキモノトス

- 第二十四條 物品檢閲委員ニ於テ檢閲上故障アルトキハ當該責任者ヨリ顛末書ヲ差出サシムヘシ
但シ顛末書ニハ當該主席者ノ檢印ヲ要ス
- 第二十五條 物品檢閲委員其檢閲ヲ終リタルトキハ檢閲ノ情況及物品一般ノ現情並ニ物品ノ使用及支給上ノ適否ニ付意見ヲ具シ校長ニ申報スヘシ
- 第二十六條 物品檢閲委員長ハ物品檢閲上必要ナリト認ムルトキハ校長ノ認可ヲ經テ書記ヲ設ケ校員ヲ以テ之ヲ充ツルコトヲ得
- 第二十七條 本規程第十八條ニ依リ設定セル帳簿ノ様式ハ別紙ノ如シ
(別紙略)

附 録

(一) 食費ニ關スル規程

- 第一條 食費ハ毎月十六日ヨリ末日迄ニ支拂フモノトス
但シ十二月三月六月ニアリテハ各其月二十日迄ニ支拂フモノトス
- 第二條 前條ノ規程ニ背キタル者ハ食費完済ニ至ル迄登校ヲ差止ム
- 第三條 通學生徒ニシテ食堂ニ於テ喫食セントスル者ハ監督教官及生徒課ヲ經テ寮務課ニ願出テ其許可ヲ受クヘシ
- 第四條 食堂ニ於テ喫食スル通學生ニ對シテハ在寮生ト等シク食事ニ關スル規程ヲ準用ス

(二) 本校生徒ニシテ入學試験ヲ受クルノ件

本校生徒ニシテ修學部類ヲ變更センガ爲メニ在學ノ儘更ニ高等學校ノ入學試験ヲ受ケントスルトキハ豫メ學校長ノ許可ヲ得ルヲ要ス

右場合ニ於テ試験ヲ受クルノ目的單ニ學校ヲ變更セントスルニ在ルトキハ之ヲ許可セス

(三) 授業料及寄宿料徴收細則

並ニ未納者取扱手續

(四二、九、二、發表)

第一條 授業料及寄宿料徴收期日ハ本校規則第一章第十一款授業料第一條及ヒ第一章第十二款生徒寮規程第六條ニ據リ之ヲ徴收ス

第二條 授業料及寄宿料ハ徴收期日內ニ於テ一定ノ納付書ニ依リ會計課ニ於テ之ヲ徴收スベシ

第三條 會計課ニ於テ前條納付書ニ依リ現金ヲ領收シタルトキハ既定ノ領收証書ヲ交付スベシ

但シ授業料ニ在テハ第二學期及第三學期寄宿料ニ在テハ翌月ヨリ豫テ交付セル領收証書ヲ納付書ニ添へ提出セシムルモノトス

第四條 領收証書ヲ遺失亡失シタルモノアルトキハ本人ヨリ理由書ヲ提出セシメ更ニ交付スベシ

第五條 授業料及寄宿料納期日內ニ納付セザルモノアルトキハ會計課ハ其怠納者ノ氏名ヲ授業料ニ在テハ生徒課ニ寄宿料ニ在テハ寮務課ニ通知シ同時ニ之ヲ學校長ニ報告スヘシ

第六條 生徒課又ハ寮務課ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ各之レヲ本人ニ催告シ尙ホ納付セサルモノアルトキ

ハ生徒課ニ於テ登校差止メノ手續ヲ爲スヘシ
 第七條 會計課ニ於テ前條怠納者ヨリ徴收シタルトキハ即日授業料ニ在テハ生徒課ニ寄宿料ニ在テハ寮務課ニ通知シ同時ニ之レヲ學校長ニ報告スヘシ
 第八條 生徒課又ハ寮務課ニ於テハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ生徒課ニ於テ登校差止メ解除ノ手續ヲナスヘシ
 第九條 怠納十四日ニ及フモ尙ホ納付セサルモノアルトキハ會計課ハ更ニ其氏名ヲ教務課ニ通知シ同時ニ之ヲ學校長ニ報告スヘシ
 第十條 教務課ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ本校々則第一章第九款ニ依リ處分案ヲ具シ學校長ノ裁決ヲ受クヘシ
 除名處分ヲ爲シタルトキハ其結果ヲ會計課其他關係各課

ニ通知スヘシ

(四) 揭示場ニ生徒ヨリ揭示ヲ爲スノ件(四二、九、一六發表
大正元十、十五追加)

一 校友會ノ部ニ係ル事件ノ揭示ハ其部々長ノ認印ヲ受ケ校友會一般ニ係ル事件ノ揭示ハ副會長ノ認印ヲ受ケ且ツ揭示ノ位置ニ付テハ生徒課ノ指圖ニ從フヘシ
 二 校友會ニ關セサル揭示ハ生徒課ノ許可ヲ得タル後ニアラサレハ揭示スルヲ得ス
 三 揭示ノ期間ハ三日トス若シ其以上ニ涉リ揭示ノ存留ヲ要スルモノハ期限ヲ定メテ生徒課ノ許可ヲ受クヘシ
 揭示ニハ揭示ノ日並ニ三日以上ニ涉ル揭示ハ其期限ヲモ表示スヘシ
 四 揭示多數ニシテ同時ニ都テノ揭示ヲ爲ス能ハサル場合ニ

於ケル揭示ノ順次ヲ左ノ如ク定ム

(イ) 第一次 校友會中央部ノ揭示

第二次 校友會各部ノ揭示

第三次 以上ニ記載セル以外ノ揭示

(ロ) 各部間ニ在テハ揭示ノ許可ヲ得タル順ニヨル

(ハ) 校友會ニ關セサル揭示ハ其揭示ノ期門中ト雖モ校友會

ノ揭示ヲ爲スノ急要ニヨリ之ヲ撤スルコトアルヘシ

五 生徒控所内ニアリテハ揭示場以外ニ揭示ヲナスコトヲ得ス

六 揭示用紙ハ堅一尺六寸(曲尺)ヲ越ユルコトヲ得ス

(五) 他學校生徒トノ競技ニ關スル件 (四四、五、二九日發表)

一 高等學校生徒ガ他ノ學校生徒ニ對スル運動競技ハ高等學校間ニノミ之ヲ許可ス、但同一所在地ニ於ケル諸學校生徒

トノ競技及ヒ他ノ學校生徒ガ高等學校所在地ニ來リテ競技ヲナサントスル時ハ此限リニアラズ

一 高等學校相互間ニ運動競技ノタメ往來スル事ハ春季、夏季、冬季ノ長期休暇ノ外之ヲ許サズ

一 高等學校生徒ト他學校生徒(他ノ高等學校ヲモ含ム)トノ運動競技ハ必ス當該學校長間ノ公文照會ニヨリテ決定スベキモノトス

(六) 生徒ノ集會ニ關スル件 (四二、九、二三日發表)

一 生徒集會ヲ催サントスルトキハ必ス左記手續ヲ經由スヘシ

集會ヲ催サントスルトキハ必ス主催者ヲ定メ其主催者ヨリ左記事項ヲ在寮生ノミノ集會ハ寮務課長ニ其他ノ集會

ハ都テ生徒課長ニ届出テ豫メ許可ヲ受クベキコト

(イ) 集會ノ目的

(ロ) 集會ノ場所

(ハ) 會同スル者ノ組名姓名

二料理屋ニ於テスル集會ハ嚴禁ス

三如何ナル場合ニ於テモ飲酒ハ嚴禁ス

(七) 集會所規程

(明治四十五年二月二十八日發表)

第一條 集會所ハ本校職員生徒ノ慰樂及相互ノ懇親ヲ謀ル爲ニ之ヲ設ク

第二條 集會所ニ在リテハ凡テ禮節ヲ重ンシ前條ノ趣旨ニ違ハサル様心掛クヘシ

第三條 集會所ノ東南隅ノ一室ハ職員用トス但シ職員之ヲ

使用セサル時ハ生徒之ヲ使用スルモ妨ナシ

第四條 集會所ハ午前十時之ヲ開キ午後九時之ヲ閉ツ

但シ休日ノ前日ハ午後十時之ヲ閉ツ

第五條 集會所内ニ於ケル職員生徒ノ需用品ハ生徒寮娛樂部賣店ヲシテ之ヲ供給セシム

第六條 生徒ノ催ス級會、室會其他相互ノ懇親ヲ目的トスル集會ハ總テ集會所ニ於テ行フヘシ

第七條 集會ヲ催サントスル時ハ其前日迄ニ寮生ノミノ集會ハ寮務課ニ其他ノ集會ハ生徒課ニ願出テ所定ノ認許證ヲ受クヘシ

第八條 集會ノ幹旋ハ幹事又ハ委員自ラ之ニ任シ娛樂部使用人ノミニ依頼スヘカラズ

第九條 集會ニ用フル食品等ノ注文ハ一切娛樂部賣店ニ委

トスヘキモノトス

第十條 代金ノ支拂ハ總テ現金トス

(八)郵便物取扱手續

(大正元年十一月二十五日ヨリ實施)

自今郵便物ノ受付並ニ引繼ノ手續ヲ左ノ如ク定ム

第一

郵便物ハ其取扱上左ノ二種ニ區分ス

甲種郵便物 生徒寮内生徒宛郵便物

乙種郵便物 甲種郵便物ニ屬セザル一切ノ郵便物

甲種郵便物ハ寮務課ニ於テ郵便局ヨリ直接ノ配達ヲ受ケ宛名人ニ配付ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

乙種郵便物ハ庶務課ニ於テ受付並引繼ノ手續ヲ爲ス

第二

庶務課ニ於テ乙種郵便物ノ取扱ヲ爲スニハ左ノ定メニヨルベシ

(イ) 學校及學校長宛ノモノハ件名簿ニ記載シ事件受理ノ手續ヲ爲スベシ

(ロ) 各課宛ノモノハ帳簿ヲ以テ當該課ニ引繼キ受領ノ証印ヲ受クベシ

(ハ) 職員宛ノモノハ速ニ各其宛名人ニ引渡スヘシ

(ニ) 生徒宛ノモノニ在リテハ宛名人ノ在寮生ナリヤ又ハ通學生ナリヤヲ調査シ各發送者並ニ名宛、氏名、郵便物ノ種類及數量ヲ帳簿ニ記載シ在寮生ノ分ハ寮務課ニ通學生ノ分ハ生徒課ニ引繼ヲ爲シ當該課係員ヨリ受領ノ証印ヲ受クベシ

本項ノ引繼ハ端書ニ在リテハ引繼惣數ノミヲ記載シ氏

名ヲ省クコトヲ得

第三

生徒課ニ於テ庶務課ヨリ生徒宛ノ郵便物ノ引繼ヲ受ケタル
キハ左ノ手續ヲ爲スベシ

端書ハ一定ノ場所ニ置キ各宛名人ノ取去ルコトニ任ス
封書ハ帳簿ヲ備ヘ宛名人氏名並ニ發送者氏名ヲ記載スル
ト共ニ郵便物到着ノ旨ヲ各本人ニ告知シ其出頭ヲ待テ受
領ノ証印ヲ爲サシメタル上交付スベシ

第四

寮務課ニ於テ受付又ハ引繼ヲ受ケタル郵便物取扱ハ其課ニ
於テ便宜其手續ヲ定ム

第五

年賀郵便物ハ庶務課ニ於テ便宜特別ノ取扱ヲ爲スコトヲ得

價格表記郵便ハ現金取扱ニ屬スルヲ以テ會計課直接ノ扱ト
ス

第六

宿直者郵便物受付並ニ引繼手續

宿直者ハ乙種郵便物ノ受付ヲ爲スベシ

受付ケタル郵便物ハ宿直者ニ於テ生徒宛ノモノト其他ノモ
ノトニ區分シ各其記載ヲ爲スベキ帳簿ノ様式ニ定ムル事項

ヲ記帳シ當番ノ終リニ於テ之ヲ庶務課ニ引繼クベシ
生徒ニシテ自己ニ宛タル郵便物ノ引渡ヲ請フモノアルキハ

其事情特ニ急ヲ要スルモノト認ムル場合ニ限り本人ノ認印
ヲ押捺セシメタル上交付シ事情ノ要点ヲ相當欄内ニ記入シ

置クベシ
右ノ場合ニ於テ其生徒ガ名宛本人ナルヤ否ヤニ關シテハ充

分ノ注意ヲ要ス
 職員宛郵便(事務ヲ分担スル職員宛ノモノニシテ其事務ニ當ル職名ヲ記スルモノヲ除ク)及急速ヲ要スル郵便物ノ送達ハ宿直者ニ於テ臨機ノ取扱ヲ爲スベシ此場合ニ於テハ帳簿ノ備考欄ニ於テ其取扱ヲ明ニスベシ
 學校及學校長宛ノ電信ハ速ニ電信符號帳ヲ添へ庶務課長ニ送達シ其指揮ヲ受クベシ
 職員宛ノ郵便物ハ休暇二日以上ニ亘ル際ニハ附箋ヲ附シテ自宅ニ廻送セシムル等成ルベク速達ヲ圖ルベシ

附記

本手續ハ大正元年十一月二十五日ヨリ實行ス

(九) 火災防禦心得

(明治三十七年二月發表)

第一章 火災ノ豫防

第一條 火災ヲ豫防スルコトハ職員一同常に注意ヲ怠ラサルコト勿論ナルモ尙次條以下ニ規定ノ事項ヲ確守スヘシ
 第二條 石油其他發火ノ虞アル物品ハ必ず一定ノ藏置場ニ格護シ火災豫防ノ裝置ナキ場所ニ藏置ス可カラス
 第三條 煙草ノ吸殻ハ往々火災ノ原因ヲナス虞アルヲ以テ特ニ注意シ相當器物ノ外ニ拋棄ス可カラス
 第四條 宿直室、表門、小使室ニ於テ宿直員就眠ノ際ハ必ずランプヲ消シ更ニ安全ランプニ点火シ火鉢ノ炭火ハ夏期ニアリテハ之ヲ滅シ冬期ニアリテハ其炭火ヲ滅シ且充分灰ヲ覆ヒ其上ニ鉄瓶ヲ置クヘシ
 第五條 教室ノ暖爐ハ當日ノ授業終了後又校長室教官室及事務室ノ暖爐又ハ火鉢ハ退出後速ニ炭火ヲ遺漏ナク取除キ豫定ノ場所ニ搬出スヘシ

第六條 冬期各室ニ煖爐ヲ焚クトキハ每朝焚付ノ後授業又ハ事務開始前巡視ヲシテ一應危険ノ有無ヲ巡檢セシメ尙各教室ハ二時間毎ニ巡檢セシムヘシ

第七條 寄宿舎ニ於テハ消燈時限後ハ廊下及便所ノ点燈ヲ除クノ外各室(舍監室 小使室共)悉皆消燈スヘシ

但火鉢ノ備付アル室ハ第四條ノ手續ヲ爲シ又舍監室、小使室ニ於テ消燈時限後点燈ノ必要アルトキハ安全ラン
プヲ用ユヘシ

第八條 寄宿舎賄所帳場及使用人扣所并ニ風呂番扣所共前條ニ據ルヘシ

第九條 寄宿舎生徒寢室ニ於テハ点燈ヲ許サ、ルコト勿論ナルモ萬一寮務課宿直員就寢後夜警巡視ニ於テ生徒寢室(病室トモ)ニ点燈ヲ認メタルトキハ直ニ之ヲ消燈セシメ且其室

號及点燈者(点燈者不明ナルトキハ室號ノミ)等ヲ翌朝寮務課ヘ報告スヘシ

第十條 巡視巡回ノ際取締ノ方法ハ別ニ定ムル所ニ據ルヘシト雖モ特ニ本章各條ニ違背ノ事實ヲ認メタルトキハ速ニ寮務課會計課又ハ宿直員ニ報告ス可シ

第二章 出火ノ消防

第一條 各職員就中宿直員ハ本校及寄宿舎共建物内ノ要所ニ消火器ノ備付アリ又屋外三箇所(小使舎ノ東方文庫課ノ東南方 寄宿舎北寮ノ東方ニ各一箇所)ニ水道防火栓ノ設置アルコト及左記消防用具ノ備付アルコトヲ記憶スヘシ

- 防火栓用ホース (ツツク製 水管ニテ金物付) 三筋 本校宿直室入口土間棚ニ二筋 寄宿舎浴場風呂番扣處棚ニ一筋
- 同上用 ハンドバイブ及セツト (ホースノ先端ニ取付ルモノ) 三本 同 同上
- 同上用キー (防火栓ヲ開閉スルモノ) 三本 同 同上
- 車輪付唧筒 一臺 本校小使室ノ東方ニアリ

同上用ホース 八筋 同宿直室入口土間ノ棚ニアリ
 同上ハンドバイブ 一本 同上
 非常用弓張提灯 二十張 表門番所ニアリ
 同 高張提灯 四張 同上
 鴛口 二十挺 同上
 梯子 (竹製長四間) 二挺 本校東入口右手ニアリ
 同 (木製長二間半) 一挺 小使室西手軒下ニアリ
 第二條 校内ニ於テ火災又ハ火災ノ原因トナルヘキ異常ノ
 火氣ヲ認メタルトキハ速ニ會計課又ハ寮務課若クハ宿直
 員ニ急報シ同時ニ消火器其他ノ方法ヲ以テ消滅ニ盡力ス
 ヘシ
 但本文ノ場合ハ實際ノ状況ニ依リ或ハ消滅ヲ先ニシ報
 告ヲ後ニスル等機宜ノ處置ヲナスコトヲ要ス

第三條 前條ノ報告ヲ受ケタル會計課又ハ寮務課若クハ宿
 直員ハ速ニ校丁ヲ召集シ及他職員ノ助力ヲ得テ防火栓ヲ
 開キ消防ニ従事シ其状況ニ依リ左記ノ處置ヲ爲スヘシ
 一 校長、寮務課長、會計課長ニ急報スルコト
 二 非常馳付人夫ヲ召集スルコト
 三 夜中ナルトキハ事務室及廊下等ニ点燈スルコト
 四 重要ナル書類、帳簿又ハ圖書、機械、標本等罹災ノ虞アルト
 キハ之ヲ搬出スルコト
 第四條 校内出火ノ際門衛ハ表裏両門ヲ嚴守シ職員、生徒、非
 常馳付人夫市内消防夫及官公吏若クハ個人ノ見舞者ヲ除
 クノ外無要ノ者ヲ門内ニ入ラシム可カラズ
 但此場合ニハ表門外ニ高張提灯ヲ備付ヘシ
 第五條 非常馳付人夫ノ馳付タルトキ門番所ニ於テ一々鑑

札ヲ検査シ其氏名ヲ書留メ表門番所ニ於テ提灯及蔭口ヲ
給付シ出火ノ現場ニ赴カシムヘシ

第六條 門番所ニ於テハ馳付タル職員生徒及一般見舞者ノ
氏名ヲ遺漏ナク書留メ置ク可シ

第七條 出火ノ際在校又ハ馳付タル職員ハ平素ノ職務上關
係ノ有無ニ係ハラステニ現場ノ傍觀者タル可カラス上官
ノ命令ナキ場合ト雖モ互ニ協同シテ本章第二條以下ノ動
作ニ助力スルコトヲ要ス

第八條 前記各條ノ外明治三十七年二月三日制定ノ非常時
變ノ際ニ於ケル宿直員心得ヲ遵守スヘシ

第九條 本章ノ規程ハ水害ノ場合ニモ之ヲ準用ス

但水害防禦ノ材料トシテ左記ノ準備アリ
一 表門堰止用板大八枚 小十六枚化學講義室床下ニアリ

一空俵堤防崩壞
阻止用百俵同上

一 裏門堰止用板四枚寄宿舎浴場土間ニアリ

附

非常時變ノ際ニ於ケル宿直員心得

一出火ノ場合ニハ先ヅ御聖影ノ保安ニ注意シ若シ危険奉安
所ニ及ブノ虞アルトキハ御聖影ハ便宜安全ノ場所ニ移シ
奉護スヘシ

二 火災水害ノ場合ニ於テ危険ノ及ブヘキ虞アル各課事務室
及教室ノ銷鑰ハ宿直員ニ於テ開放シ臨機ノ處置ヲナスヘ
シ

三 各室ヨリ保管ノ爲メ依托セラレタル鍵ハ時變ニ際シ混亂
セサル様注意シ保管スヘシ

四 宿直者ハ當直時間ノ始メニ於テ非常時變ノ際ニ要スル器

具物品即チ提灯、蠟燭、梯子救護ニ從事スル人夫ニ給付スヘキ物品等ノ整否ヲ検査スヘシ

五前項ノ外ハ本校制定ノ當直員服務規程ニ準シテ事務ヲ處理スヘシ

五、職員姓名

(大正元年十一月二十五日現在)

學校長	金子銓太郎	陸軍歩兵大尉	東京府
教授	岡野義三郎	文學士	大阪府
修身、心理學、論理學、英語	三輪田輪三	文學士	東京府
數學	大渡忠太郎	文學士	東京府
動物學、植物學	足立謙吉	文學士	東京府
獨語	滿田新造	文學士	福島縣
歷史、漢文	秋月胤繼	文學士	東京府
修身、漢文	內藤馬藏	文學士	岡山縣
歷史	田中三四郎	文學士	東京府
物理	三宅亥四郎	文學士	廣島縣
英語		PH.D. (Yale)	

英語	圖書	國語	獨語	地質及礦物	英語	英語	國語	獨語	化學	獨語	化學	獨語	數學
生徒監													
廣津友信	松尾哲太郎	原榮	生田巖太郎	八木正衛	落合貞三郎	大倉本澄	志田義秀	雪山俊夫	辻卓爾	池山榮吉	窪美温	秋山於菟	
福岡縣	岡山縣	岡山縣	群馬縣	高知縣	島根縣	大阪府	富山縣	富山縣	岡山縣	東京府	富山縣	東京府	

物理學	獨語	獨語	獨語	英語	國語、漢文	體操	體操	體操	獨語	獨語	獨語	測量	獨語
講師												岡山縣立工業學校教諭	
理學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	陸軍步兵少尉	陸軍步兵少尉	陸軍步兵大尉	陸軍步兵少尉	陸軍步兵少尉	文學士	工學士	文學士
雜賀修二郎	天沼貴彦	鈴木恒治	服部克己	小林長二郎	藤原嵩三	吉田貞一	佐々木邦	秋元喜久雄	仲榮壽	黑瀬義一	立澤剛		
大分縣	東京府	岩手縣	兵庫縣	岡山縣	岡山縣	岡山縣	靜岡縣	靜岡縣	靜岡縣	岡山縣	福岡縣		

法律、經濟 岡山地方裁判所判事

法學士

塚田正三 新潟縣

英語

Roger Julious Inglotto.

英國人

備外國人教師

英語、羅旬語

M.A (Oxford) Auther Lindsay Sadler.

英國人

獨語

Max Richard Fehler.

獨國人

獨語、羅旬語

Doctor. Otto. Becker.

獨國人

助教授

體操

囑託教員

體操科授業囑託

圖書測量科授業補助囑託

測量科 授業補助囑託

生物學授業補助囑託

陸軍歩兵少尉

武田 榎太郎 岡山縣

鹽田 貫三郎 岡山縣

中島 涉 岡山縣

堀 正 京都府

日下 庄太郎 岡山縣

物理學授業補助囑託

地質礦物學授業補助囑託

物理學授業補助囑託

國語及漢文科授業補助囑託

書記

新井 穆 東京府

小野 磯次郎 岡山縣

河合 堯 岡山縣

板野 猪三次 岡山縣

雇員

松本 鉄太 岡山縣

荒木 寧 岡山縣

高橋 駒吉 岡山縣

一部三年乙ノ組
 一部三年丙ノ組
 二部三年甲ノ組
 二部三年乙ノ組
 三部三年ノ組
 一部二年甲ノ組
 一部二年乙ノ組
 一部二年丙ノ組
 二部二年甲ノ組
 二部二年乙ノ組
 三部二年ノ組
 一部一年甲ノ組
 一部一年乙ノ組

教 授 秋 月 胤 繼
 教 授 生 田 巖 太 郎
 教 授 辻 卓 爾
 教 授 雜 賀 修 二 郎
 教 授 窪 美 溫
 教 授 落 合 貞 三 郎
 教 授 內 藤 馬 藏
 教 授 雪 山 俊 夫
 教 授 田 中 三 四 郎
 教 授 天 沼 貴 彦
 教 授 池 山 榮 吉
 教 授 大 倉 本 澄
 教 授 滿 田 新 造

學 科 主 任

一部一年丙ノ組
 二部一年甲ノ組
 二部一年乙ノ組
 三部一年ノ組

教 授 志 田 義 秀
 教 授 松 尾 哲 太 郎
 教 授 秋 山 於 菴 麿
 教 授 原 榮
 教 授 岡 野 義 三 郎
 教 授 三 輪 田 輪 三
 教 授 大 渡 忠 太 郎
 教 授 滿 田 新 造
 教 授 秋 月 胤 繼
 教 授 田 中 三 四 郎
 教 授 三 宅 亥 四 郎
 教 授 松 尾 哲 太 郎

獨語、羅旬語	教授	生田巖太郎
化學	教授	辻卓爾
體操	講師	服部克己
主任	講師	服部克己
	講師	小林長二郎
	講師	藤原嵩三
	助教授	日下庄太郎
事務分課	教授	岡野義三郎
教務課	書記	小野磯次郎
長	(兼)	堀正矩
	(兼)	堀正矩

長	生徒課	囑託教員	山崎正巍
		教授	三輪田輪三
		講師	服部克己
		(兼) 書記	小野磯次郎
		(兼) 囑託教員	堀正矩
長	寮務課	教授	廣津友信
		講師	小林長二郎
		講師	藤原嵩三
		助教授	日下庄太郎
		囑託教員	鹽田貫三郎
	庶務課		

職員

一八四

長	會計課	長	文庫課	長
教授	書記	教授	書記	教授
大渡忠太郎	新井 穆	松尾哲太郎	板野猪三次	金子銓太郎
小野磯次郎	荒木 寧	河合堯永	松本鉄太	岡野義三郎
嘱托教員	草野辰三	高橋駒吉		三輪田輪三
				大渡忠太郎
				秋月胤繼
				內藤馬藏
				田中三四郎
				廣津友信
				松尾哲太郎
				大倉本澄
				志田義秀
				辻 卓爾
				池山榮吉

校友會中央部役員

職員

一八五

會長	學校長	金子銓太郎
副會長	教授	岡野義三郎
弓術部長	教授	三輪田輪三
庭球部長	教授	大渡忠太郎
會誌部長	教授	秋月胤繼
擊劍部長	教授	內藤馬藏
端艇部長	教授	田中三四郎
辨論部長	教授	廣津友信
柔道部長	教授	松尾哲太郎
英語部長	教授	大倉本澄
會誌副部長	教授	志田義秀
野球部長	教授	辻 卓爾
獨語部長	教授	池山榮吉

校友會々計主任
 校友會庶務主任
 校友會會計係
 擊劍教師
 柔道教師

書記 新井 穆
 書記 小野 磯次郎
 書記 松本 鉄太
 書記 阿部 實晟
 書記 岡野 好太郎

○生徒姓名

(大正元年九月三十日現在)

備考

姓名ノ傍ニ(持)トアルハ特待生。(支)トアルハ支那留學生。
 (推)トアルハ無試験入學者。又支那留學生ノ傍ニ講トアルハ
 聽講生ナリ

一部一年甲組

(四十四名)

支民縣	大分縣	愛媛縣	岡山縣	岡山縣	廣島縣	廣島縣	兵庫縣	岡山縣	岡山縣	岡山縣	山口縣	愛媛縣
鐘	藤原可也	森田清三	岡本誠一郎	近藤信治	土肥幹夫	倉賀野正直	山崎英次郎	木村蕃	山崎英次郎	山崎英次郎	阿部敏英	都谷幹太郎
平山縣	東京府	岡山縣	廣島縣	廣島縣	岡山縣	兵庫縣	岡山縣	岡山縣	岡山縣	岡山縣	岡山縣	岡山縣
小山謙藏	小林喜七	岸本時次	武田京二郎	中清三郎	木章平	小野豐治	井上解治	阿部敏英	井上解治	井上解治	大村郡次郎	大室亮一
神奈川縣	廣島縣	廣島縣	山口縣	東京府	廣島縣	岡山縣	廣島縣	岡山縣	岡山縣	岡山縣	岡山縣	岡山縣
長濱武彦	住田正一	川崎忠太郎	植本俊太	桂 梶	藤井萬吉	大室亮一	大村郡次郎	大村郡次郎	大村郡次郎	大村郡次郎	大村郡次郎	大村郡次郎